

第Ⅱ章 医療保障

1. ケガや病気に対する不安意識

ここでは、傷病に対する不安意識について、その程度や内容について捉えている。

(1) ケガや病気に対する不安の有無

まず、自分自身がケガや病気をすることについての不安の有無と程度を捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ケガや病気により健康を害することについて、どの程度不安を感じていますか。

- (ア) 非常に不安を感じる
- (イ) 不安を感じる
- (ウ) 少し不安を感じる
- (エ) 不安を感じない……………以下「不安感なし」
わからない

その結果、「不安感あり」（上記の選択肢で（ア）～（ウ）のいずれかに回答した人の合計）は89.6%、内訳としては“不安を感じる”と“少し不安を感じる”がそれぞれ3割を超え、“非常に不安を感じる”は2割を超えている。また、「不安感なし」は9.8%となっている。

前回と比較すると、大きな差はみられなかった。（図表Ⅱ－1）

〈図表Ⅱ－1〉 ケガや病気に対する不安の有無

（単位：％）

	「不安感あり」				N
	非常に不安を感じる	不安を感じる	少し不安を感じる	不安感なし	
令和元年	21.0	36.4	32.3	9.8	4,014
		(89.6%)			0.6
平成28年	22.9	34.7	32.4	9.6	4,056
		(90.1%)			0.3
平成25年	22.8	34.0	33.7	9.1	4,043
		(90.5%)			0.4
平成22年	24.1	34.1	31.1	10.1	4,076
		(89.3%)			0.6
平成19年	20.8	34.3	33.9	10.2	4,059
		(89.0%)			0.7
平成16年	20.8	33.1	33.3	11.9	4,202
		(87.3%)			0.8
平成13年	21.2	34.9	31.8	11.7	4,197
		(87.8%)			0.5
平成10年	20.4	32.4	33.0	13.3	4,217
		(85.8%)			0.9

性別にみると、「不安感あり」で女性（91.2%）が男性（87.6%）を3.6ポイント上回っている。
 性・年齢別にみると、「不安感あり」は男性40歳代、女性50歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－2）

〈図表Ⅱ－2〉 ケガや病気に対する不安の有無〔性・年齢別〕

（単位：%）

	N	不安の有無					わからない
		非常に不安を感じる	不安を感じる	少し不安を感じる	不安感あり	不安感なし	
男 性	1,765	18.8	36.8	32.1	87.6	11.7	0.7
20歳代	205	19.5	36.1	30.7	86.3	11.7	2.0
30歳代	296	18.6	33.1	33.8	85.5	13.9	0.7
40歳代	422	18.2	41.7	31.3	91.2	8.3▲	0.5
50歳代	389	18.8	36.2	35.0	90.0	9.5	0.5
60歳代	410	19.5	36.8	31.2	87.6	12.2	0.2
女 性	2,249	22.7	36.1	32.4	91.2	8.2	0.5
20歳代	197	22.8	37.6	27.4	87.8	11.7	0.5
30歳代	383	24.8	37.3	31.1	93.2	6.3	0.5
40歳代	526	22.4	36.1	33.3	91.8	7.4	0.8
50歳代	511	24.9	36.4	33.1	94.3	5.7▲	0.0
60歳代	593	19.9	35.4	34.1	89.4	9.8	0.8

(2) ケガや病気に対する不安の内容

前述「(1) ケガや病気に対する不安の有無」で「不安感あり」と回答した人に対して、その具体的な不安の内容を明らかにするため、以下のように尋ねた。

具体的にどのようなことを不安に思っていますか。この中からいくつでもお答えください。

- (ア) 公的医療保険だけでは不十分なこと……………以下「公的医療保険だけでは不十分」
- (イ) 長期の入院により医療費がかさむこと……………以下「長期の入院で医療費がかさむ」
- (ウ) 公的医療保険のきかない差額ベッド代が自己負担費用としてかかること……………以下「保険対象外の差額ベッド代がかかる」
- (エ) 公的医療保険のきかない先進医療の技術料が自己負担費用としてかかること……………以下「保険対象外の先進医療の費用がかかる」
- (オ) 家族の見舞いや看護など様々な付随的な費用がかかること……………以下「家族の見舞いなど付随的費用がかかる」
- (カ) 現在の経済的準備では必要となる費用がまかなえないこと……………以下「現在の準備では費用がまかなえない」
- (キ) 障害等により、就労困難・不能となること……………以下「障害等により就労不能となる」
- (ク) 治療が長期にわたり収入が途絶えること……………以下「治療の長期化で収入が途絶える」
- (ケ) 三大疾病であるガンや心疾患、脳血管疾患にかかること……………以下「三大疾病にかかる」
- (コ) 肝硬変や高血圧症、糖尿病などの慢性疾患にかかること……………以下「慢性疾患にかかる」
- (サ) 不慮の事故にあうこと……………以下「不慮の事故にあう」
- (シ) 後遺症や障害が残ること……………以下「後遺症や障害が残る」
- (ス) 適切な治療が受けられるかどうかかわからないこと……………以下「適切な治療が受けられるかわからない」
- (セ) 家族に肉体的・精神的負担をかけること……………以下「家族に肉体的・精神的負担をかける」
- (ソ) 入院前と同じように仕事に復帰できるかどうかかわからないこと……………以下「以前のように仕事に復帰できるかわからない」
- (タ) その他
わからない

その結果、「家族に肉体的・精神的負担をかける」が52.3%と最も高く、以下「長期の入院で医療費がかさむ」(51.8%)、「後遺症や障害が残る」(46.3%)の順となっている。

前回と比較すると、「保険対象外の先進医療の費用がかかる」が3.8ポイント減少している。(図表Ⅱ-3)

〈図表Ⅱ-3〉 ケガや病気に対する不安の内容

(複数回答, 単位: %)

	N	家族に肉体的・精神的負担をかける	長期の入院で医療費がかさむ	後遺症や障害が残る	障害等により就労不能となる	三大疾病にかかる	公的医療保険だけでは不十分	不慮の事故にあう	治療の長期化で収入が途絶える	現在の準備では費用がまかなえない	保険対象外の先進医療の費用がかかる	以前のように仕事に復帰できるかわからない	慢性疾患にかかる	家族の見舞いなど付随的費用がかかる	保険対象外の差額ベッド代がかかる	適切な治療が受けられるかわからない	その他	わからない
令和元年	3,598	52.3	51.8	46.3	43.7	42.9	42.0	40.8	36.3	31.2	30.3	25.4	25.4	23.4	21.9	18.2	0.5	0.6
平成28年	3,653	54.2	53.6	47.5	42.0	42.5	41.9	41.7	34.9	30.6	34.1	23.7	25.4	23.0	23.4	20.1	0.7	0.7
平成25年	3,659	44.3	55.5	36.6	35.0	34.4	44.9	36.4	30.0	29.8	33.7	20.0	19.0	18.6	21.4	15.0	0.6	0.8
平成22年	3,639	48.1	58.6	39.3	35.3	38.0	52.3	37.1	32.5	32.6	35.5	21.0	22.1	18.8	25.3	18.6	0.7	0.8

性別にみると、女性の方が高い項目は、「家族に肉体的・精神的負担をかける」、「後遺症や障害が残る」等の7項目となっている。男性は「障害等により就労不能となる」、「慢性疾患にかかる」が高くなっている。

性・年齢別にみると、「障害等により就労不能となる」は男性30～50歳代、女性20～40歳代で高くなっている。また、男女とも「治療の長期化で収入が途絶える」は30～40歳代の層で高く、「不慮の事故にあう」は男性20～30歳代、女性30歳代で、「現在の準備では費用がまかなえない」は男性40歳代、女性20～30歳代で高くなっている。(図表Ⅱ-4)

〈図表Ⅱ-4〉 ケガや病気に対する不安の内容〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	家族に肉体的・精神的負担をかける	長期の入院で医療費がかさむ	後遺症や障害が残る	障害等により就労不能となる	三大疾病にかかる	公的医療保険だけでは不十分	不慮の事故にあう	治療の長期化で収入が途絶える	現在の準備では費用がまかなえない
男性	1,546	44.7	48.7	40.8	45.9	41.8	40.2	41.3	36.2	29.9
20歳代	177	41.2	49.7	39.5	50.3	32.8▲	30.5▲	48.6	33.3	32.8
30歳代	253	49.8	48.2	49.4	52.2	40.7	34.4▲	49.0	47.4	29.2
40歳代	385	49.9	50.1	43.6	53.5	48.8	44.9	42.9	44.2	34.5
50歳代	350	44.9	46.3	42.6	51.4	38.9	46.0	38.0	37.1	30.9
60歳代	359	39.0▲	48.7	31.2▲	25.6▲	43.5	39.8	33.1▲	22.0▲	23.4▲
女性	2,052	58.0	54.2	50.5	42.0	43.8	43.4	40.5	36.3	32.1
20歳代	173	52.6	54.9	41.6▲	49.1	37.0	36.4	43.9	36.4	41.0
30歳代	357	62.7	53.5	50.1	50.7	42.0	42.9	45.9	43.1	39.2
40歳代	483	60.7	54.7	49.9	49.1	43.3	44.1	42.2	44.1	32.1
50歳代	482	58.9	57.3	51.7	42.1	45.9	45.6	38.2	37.1	31.1
60歳代	530	54.7	51.3	53.8	27.7▲	45.8	44.9	35.5▲	24.2▲	25.3▲

	N	保険対象外の先進医療の費用がかかる	以前のようには復帰できないかわからない	慢性疾患にかかる	家族の見舞いなど付随的費用がかかる	保険対象外の差額ベッド代がかかる	適切な治療が受けられないかわからない	その他	わからない
男性	1,546	28.1	25.9	27.6	20.4	19.7	15.3	0.6	0.3
20歳代	177	17.5▲	28.8	15.3▲	18.1	9.6▲	10.2▲	0.6	0.0
30歳代	253	27.3	34.0	30.8	25.3	22.9	15.8	0.4	0.0
40歳代	385	33.8	31.7	30.1	21.0	21.0	17.4	0.0	0.3
50歳代	350	28.9	24.9	28.0	21.1	22.6	17.7	0.3	0.0
60歳代	359	27.6	13.4▲	29.5	16.7▲	18.9	13.4	1.4	1.1
女性	2,052	31.9	25.1	23.8	25.6	23.5	20.4	0.4	0.9
20歳代	173	23.1▲	29.5	18.5	23.7	14.5▲	13.9▲	0.6	1.2
30歳代	357	33.6	30.3	21.3	31.4	21.3	19.0	0.3	0.3
40歳代	483	32.1	28.4	25.9	28.2	23.6	19.7	0.8	1.2
50歳代	482	34.9	26.6	26.1	26.6	24.9	24.1	0.2	0.6
60歳代	530	31.7	15.7▲	23.2	19.4▲	27.0	20.9	0.4	1.1

2. 過去5年間の入院経験

(1) 入院経験の有無と入院日数

ここでは、過去5年間の自分自身のケガや病気による入院経験の有無と通算入院日数について、以下のように尋ねた。

あなたは過去5年間に、ケガや病気で入院されたことがありますか。ただし正常な妊娠や分娩のための入院は除いてお答えください。

入院したことがある……………以下「入院経験あり」

入院したことはない……………以下「入院経験なし」

わからない

①入院経験

その結果、「入院経験あり」の割合は13.7%となっている。

年齢別では、「入院経験あり」は高年齢層ほど高く、60歳代では19.8%となっている。(図表Ⅱ-5)

〈図表Ⅱ-5〉 過去5年間の入院経験の有無〔年齢別〕

(単位：%)

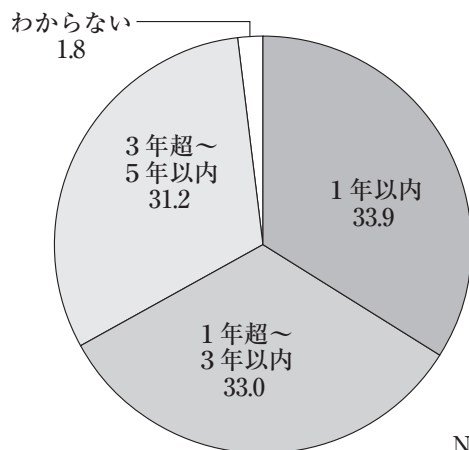
	N	入院経験あり	入院経験なし	わからない
全体	4,014	13.7	86.1	0.1
20歳代	402	8.0▲	92.0	0.0
30歳代	679	10.0▲	89.5	0.4
40歳代	948	11.8	88.1	0.1
50歳代	900	14.7	85.3	0.0
60歳代	1,003	19.8	80.2▲	0.0

また、「入院経験あり」とした人の、一番最近の入院の時期は、「1年以内」が33.9%、「1年超～3年以内」が33.0%、「3年超～5年以内」が31.2%となっている。(図表Ⅱ-6)

〈図表Ⅱ-6〉 直近の入院の時期

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)

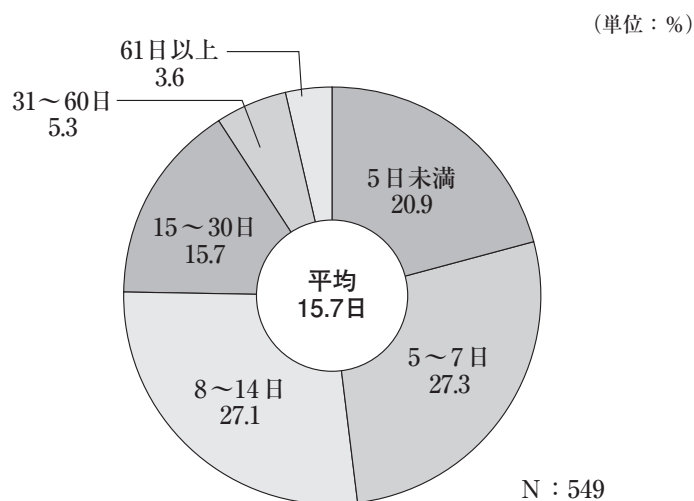


②直近の入院時の入院日数

入院経験がある人の、直近の入院における入院日数は、平均で15.7日となっている。入院日数の分布をみると、「5～7日」が27.3%、「8～14日」が27.1%となっている。(図表Ⅱ－7)

〈図表Ⅱ－7〉 直近の入院時の入院日数

[集計ベース：過去5年間に入院した人]



年齢別にみると、概ね高年齢層ほど入院日数が長くなっている。(図表Ⅱ－8)

〈図表Ⅱ－8〉 直近の入院時の入院日数〔年齢別〕

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)

	N	5日未満	5～7日	8～14日	15～30日	31～60日	61日以上	平均(日)
全体	549	20.9	27.3	27.1	15.7	5.3	3.6	15.7
20歳代	32	25.0	34.4	21.9	12.5	0.0	6.3	14.4
30歳代	67	25.4	31.3	25.4	10.4	4.5	3.0	13.5
40歳代	112	25.0	32.1	24.1	12.5	4.5	1.8	12.3
50歳代	132	18.9	30.3	28.0	13.6	6.1	3.0	15.2
60歳代	198	18.7	19.7▲	29.3	20.7	6.6	5.1	19.0

(2) 直近の入院時の高額療養費制度の利用経験

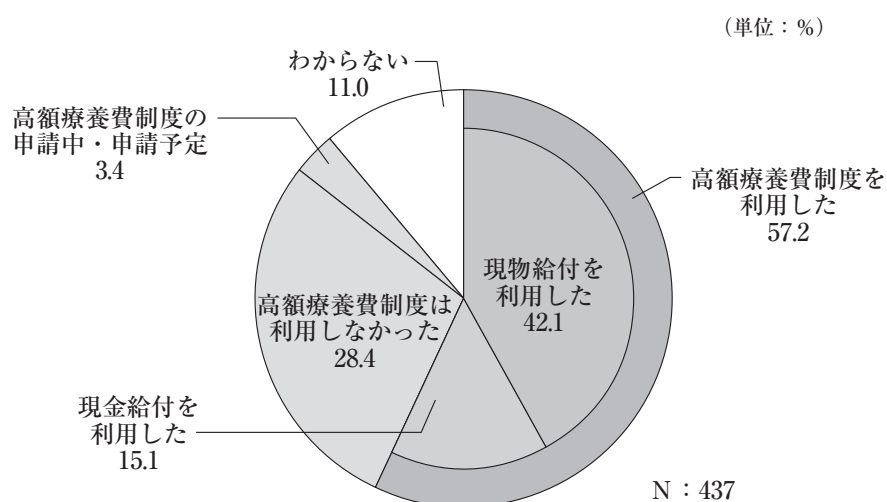
次に、直近の入院時の高額療養費制度の利用経験について、以下のように尋ねた。

その一番最近の入院で掛かった費用に関して高額療養費制度を利用しましたか。
(ア) 高額療養費制度の現物給付（自己負担限度額分のみを支払った）を利用した 以下「現物給付を利用した」
(イ) 高額療養費制度の現金給付（差額分の払い戻しを受けた）を利用した 以下「現金給付を利用した」
(ウ) 高額療養費制度は利用しなかった（高額療養費制度が適用されない金額だった）
(エ) 現在、高額療養費制度の利用を申請中、もしくはこれから申請する予定 以下「高額療養費制度の申請中・申請予定」
わからない

その結果、「高額療養費制度を利用した」は57.2%、「高額療養費制度は利用しなかった」は28.4%となっている。また、「高額療養費制度を利用した」人のうち、「現物給付を利用した」が42.1%、「現金給付を利用した」が15.1%となっている。（図表Ⅱ－9）

〈図表Ⅱ－9〉 直近の入院時の高額療養費制度の利用経験

[集計ベース：過去5年間に入院した人]



直近の入院時の高額療養費制度の利用経験を年齢別にみると、「高額療養費制度を利用した」は30歳代で64.9%となっている。（図表Ⅱ－10）

〈図表Ⅱ－10〉 直近の入院時の高額療養費制度の利用経験〔年齢別〕

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)

	N	高額療養費制度を利用した		高額療養費制度は利用しなかった	高額療養費制度の申請中・申請予定	わからない	
		現物給付を利用した	現金給付を利用した				
全体	437	42.1	15.1	57.2	28.4	3.4	11.0
20歳代	23	34.8	4.3	39.1	43.5	0.0	17.4
30歳代	57	47.4	17.5	64.9	19.3	3.5	12.3
40歳代	89	39.3	15.7	55.1	36.0	2.2	6.7
50歳代	107	39.3	14.0	53.3	31.8	2.8	12.1
60歳代	159	45.3	16.4	61.6	22.6▲	5.0	10.7

(3) 直近の入院時の自己負担費用

直近の入院時の自己負担費用について、以下のように尋ねた。

その一番最近の入院で実際に掛かった費用は全部でおおよそいくらぐらいでしたか。治療費・食事代・差額ベッド代に、交通費（見舞いに来る家族の交通費も含む）や衣類、日用品なども含めてお答えください。高額療養費制度を利用した場合は、利用後の金額をお答えください。

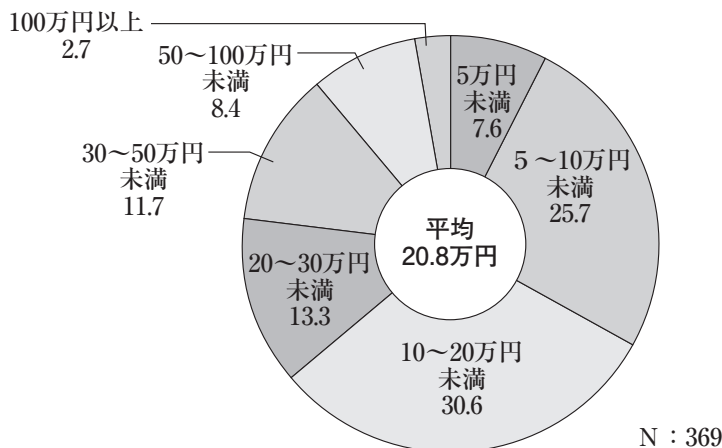
- 約□□□□万□千円
- 掛かった費用はない
- わからない

その結果、高額療養費制度を利用した人及び利用しなかった人（適用外含む）の直近の入院時の自己負担費用*の平均は20.8万円となっている。費用の分布をみると、「10～20万円未満」が30.6%、「5～10万円未満」が25.7%、「20～30万円未満」が13.3%、「30～50万円未満」が11.7%となっている。（図表Ⅱ－11）

〈図表Ⅱ－11〉 直近の入院時の自己負担費用

〔集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人（高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人（適用外含む））〕

（単位：％）



*治療費・食事代・差額ベッド代に加え、交通費（見舞いに来る家族の交通費も含む）や衣類、日用品などを含む。高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額

直近の入院時の入院日数別に自己負担費用をみると、入院日数が長くなるほど自己負担費用が高く、“61日以上”では60.9万円となっている。（図表Ⅱ－12）

〈図表Ⅱ－12〉 直近の入院時の自己負担費用〔直近の入院時の入院日数別〕

〔集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人（高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人（適用外含む））〕

（単位：％）

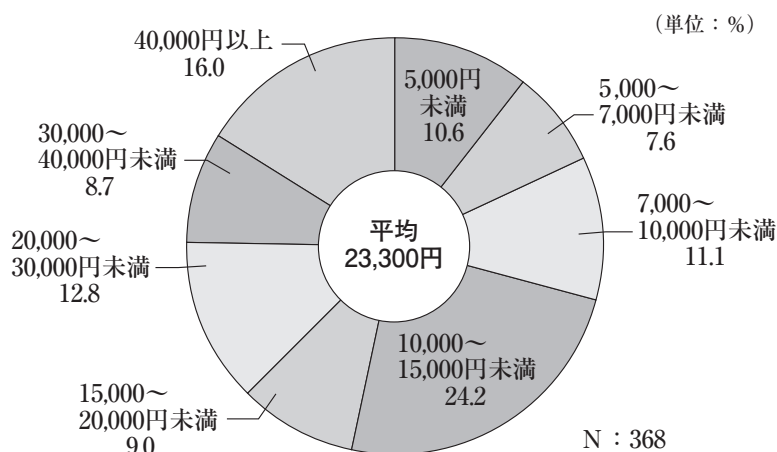
	N	5万円未満	5～10万円未満	10～20万円未満	20～30万円未満	30～50万円未満	50～100万円未満	100万円以上	平均(万円)
全体	369	7.6	25.7	30.6	13.3	11.7	8.4	2.7	20.8
5日未満	76	14.5	38.2	34.2	11.8	0.0▲	1.3▲	0.0	10.1
5～7日	95	10.5	37.9	26.3	12.6	7.4	3.2▲	2.1	15.6
8～14日	104	4.8	22.1	37.5	13.5	11.5	7.7	2.9	21.0
15～30日	62	1.6	9.7▲	30.6	19.4	25.8	8.1	4.8	28.5
31～60日	20	5.0	5.0▲	20.0	10.0	25.0	35.0	0.0	34.6
61日以上	11	0.0	0.0▲	0.0▲	0.0	27.3	63.6	9.1	60.9

*治療費・食事代・差額ベッド代に加え、交通費（見舞いに来る家族の交通費も含む）や衣類、日用品などを含む。高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額

また、自己負担費用の総額を入院日数で除した1日あたりの自己負担費用*は、平均で23,300円となっている。費用の分布をみると、「10,000～15,000円未満」が24.2%と最も高く、以下、「40,000円以上」(16.0%)、「20,000～30,000円未満」(12.8%)の順となっている。(図表Ⅱ-13)

*サンプルごとに算出したものの平均値

〈図表Ⅱ-13〉 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用
 [集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
 (高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人(適用外含む))]



*治療費・食事代・差額ベッド代に加え、交通費(見舞いに来る家族の交通費も含む)や衣類、日用品などを含む。高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額

直近の入院の時期別に1日あたりの自己負担費用をみると、“1年以内”で26,200円と比較的高い金額となっている。(図表Ⅱ-14)

〈図表Ⅱ-14〉 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用〔直近の入院の時期別〕
 [集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
 (高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人(適用外含む))]

時期別	N	(単位：%)								平均 (円)
		5,000円未満	5,000～7,000円未満	7,000～10,000円未満	10,000～15,000円未満	15,000～20,000円未満	20,000～30,000円未満	30,000～40,000円未満	40,000円以上	
全体	368	10.6	7.6	11.1	24.2	9.0	12.8	8.7	16.0	23,300
1年以内	135	10.4	8.1	9.6	20.7	8.9	12.6	11.9	17.8	26,200
1年超～3年以内	129	8.5	10.1	14.0	25.6	10.9	8.5	7.0	15.5	20,400
3年超～5年以内	99	13.1	4.0	10.1	27.3	6.1	19.2	7.1	13.1	22,500

*治療費・食事代・差額ベッド代に加え、交通費(見舞いに来る家族の交通費も含む)や衣類、日用品などを含む。高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額

(4) 直近の入院時の逸失収入の有無

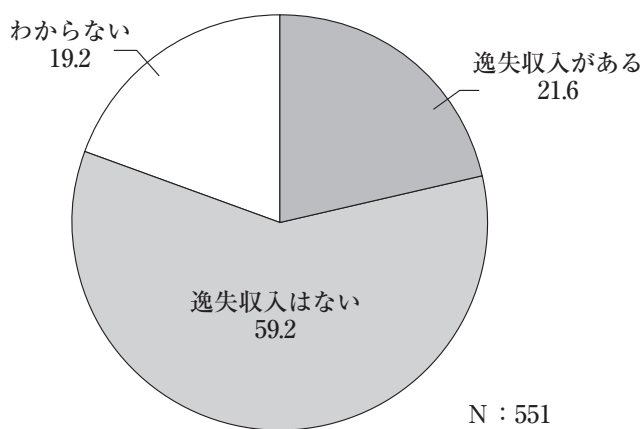
直近の入院時の逸失収入について、以下のように尋ねた。

その一番最近の入院により失われた収入はおおよそいくらぐらいでしたか。
 約□□□□万□千円
 失われた収入はない
 わからない

その結果、直近の入院において逸失収入があった割合は21.6%となっている。(図表Ⅱ-15)

〈図表Ⅱ-15〉 直近の入院時の逸失収入の有無
 [集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)



年齢別にみても、大きな差はみられなかった。(図表Ⅱ-16)

〈図表Ⅱ-16〉 直近の入院時の逸失収入の有無 [年齢別]
 [集計ベース：過去5年間に入院した人]

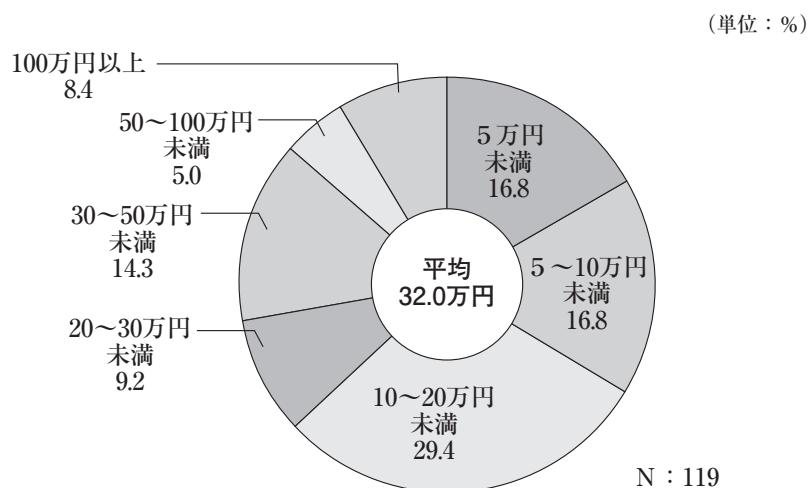
(単位：%)

	N	逸失収入がある	逸失収入はない	わからない
全体	551	21.6	59.2	19.2
20歳代	32	28.1	53.1	18.8
30歳代	68	22.1	69.1	8.8▲
40歳代	112	24.1	57.1	18.8
50歳代	132	23.5	55.3	21.2
60歳代	199	18.6	61.3	20.1

(5) 直近の入院時の逸失収入

逸失収入があった人の直近の入院時の逸失収入の平均は32.0万円となっている。分布をみると、「10～20万円未満」が29.4%、「5～10万円未満」、「5万円未満」がともに16.8%となっている。(図表Ⅱ-17)

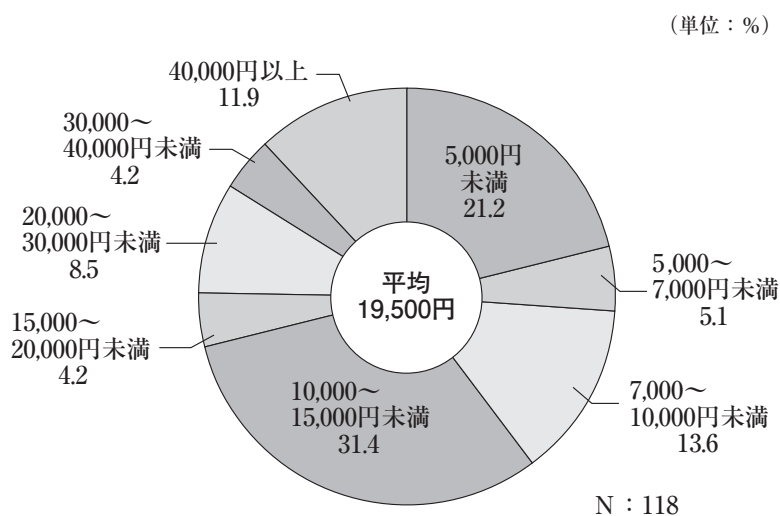
〈図表Ⅱ-17〉 直近の入院時の逸失収入
 [集計ベース：過去5年間に入院し、逸失収入があった人]



逸失収入の総額を入院日数で除した1日あたりの逸失収入*は、平均で19,500円となっている。分布をみると、「10,000～15,000円未満」が31.4%、「5,000円未満」が21.2%、「7,000～10,000円未満」が13.6%となっている。(図表Ⅱ-18)

*サンプルごとに算出したものの平均値

〈図表Ⅱ-18〉 直近の入院時の1日あたりの逸失収入
 [集計ベース：過去5年間に入院し、逸失収入があった人]



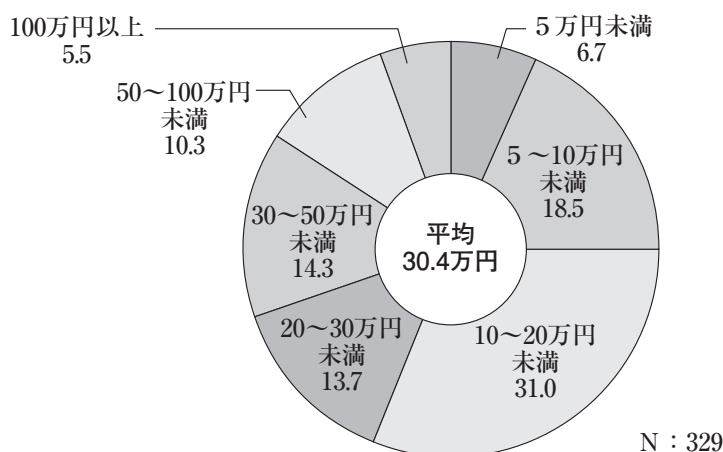
(6) 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の総額

入院経験がある人の、直近の入院における自己負担費用と逸失収入の総額*の平均は30.4万円となっている。分布をみると、「10～20万円未満」が31.0%、「5～10万円未満」が18.5%、「30～50万円未満」が14.3%となっている。(図表Ⅱ-19)

〈図表Ⅱ-19〉 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の総額

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人]

(単位：%)



* 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

直近の入院時の入院日数別に自己負担費用と逸失収入の総額をみると、入院日数が長くなるほど平均額が高く、“61日以上”では92.7万円となっている。(図表Ⅱ-20)

〈図表Ⅱ-20〉 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の総額 [直近の入院時の入院日数別]

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人]

(単位：%)

	N	5万円未満	5～10万円未満	10～20万円未満	20～30万円未満	30～50万円未満	50～100万円未満	100万円以上	平均(万円)
全体	329	6.7	18.5	31.0	13.7	14.3	10.3	5.5	30.4
5日未満	64	15.6	31.3	34.4	12.5	6.3▲	0.0▲	0.0▲	11.7
5～7日	88	10.2	28.4	36.4	8.0	12.5	2.3▲	2.3	19.1
8～14日	95	3.2	11.6▲	35.8	17.9	14.7	12.6	4.2	29.0
15～30日	51	0.0▲	7.8▲	19.6	23.5	23.5	15.7	9.8	43.9
31～60日	19	0.0	5.3	21.1	5.3	26.3	36.8	5.3	60.6
61日以上	11	0.0	0.0	0.0▲	0.0	9.1	45.5	45.5	92.7

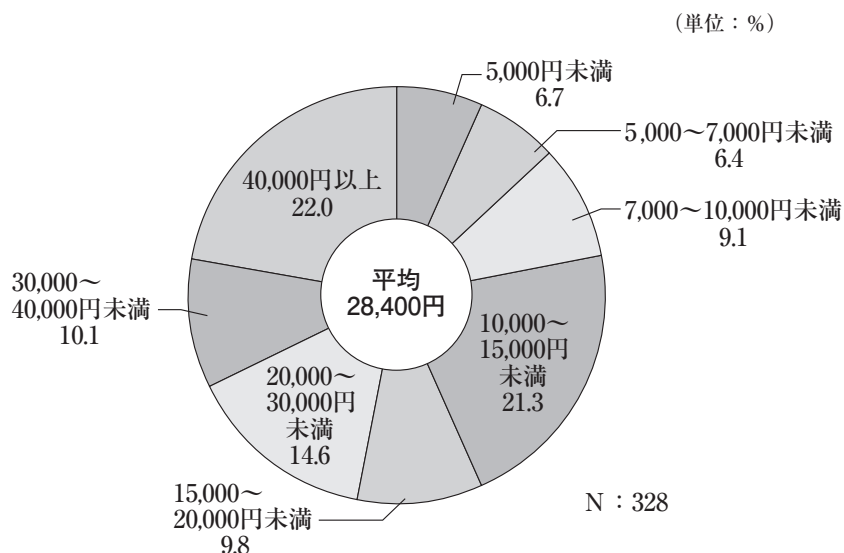
* 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

自己負担費用と逸失収入の総額を入院日数で除した1日あたりの額*をみると、平均は28,400円となっている。分布をみると、「10,000～15,000円未満」が21.3%、「20,000～30,000円未満」が14.6%、「30,000～40,000円未満」が10.1%となっている。(図表Ⅱ-21)

*サンプルごとに算出したものの平均値

〈図表Ⅱ-21〉 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用と逸失収入の総額

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人]



*直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

直近の入院の時期別に1日あたりの自己負担費用と逸失収入の総額をみると、“1年以内”で最も高く、30,300円となっている。(図表Ⅱ-22)

〈図表Ⅱ-22〉 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用と逸失収入の総額 [直近の入院の時期別]

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人]

(単位：%)

	N	5,000円未満	5,000～7,000円未満	7,000～10,000円未満	10,000～15,000円未満	15,000～20,000円未満	20,000～30,000円未満	30,000～40,000円未満	40,000円以上	平均(円)
全体	328	6.7	6.4	9.1	21.3	9.8	14.6	10.1	22.0	28,400
1年以内	125	4.8	7.2	8.0	20.0	8.8	16.8	12.8	21.6	30,300
1年超～3年以内	111	5.4	9.0	10.8	19.8	11.7	9.0▲	9.0	25.2	27,700
3年超～5年以内	88	10.2	2.3	9.1	25.0	8.0	19.3	8.0	18.2	26,900

*直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

(7) 直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段

直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段について、以下のように尋ねた。

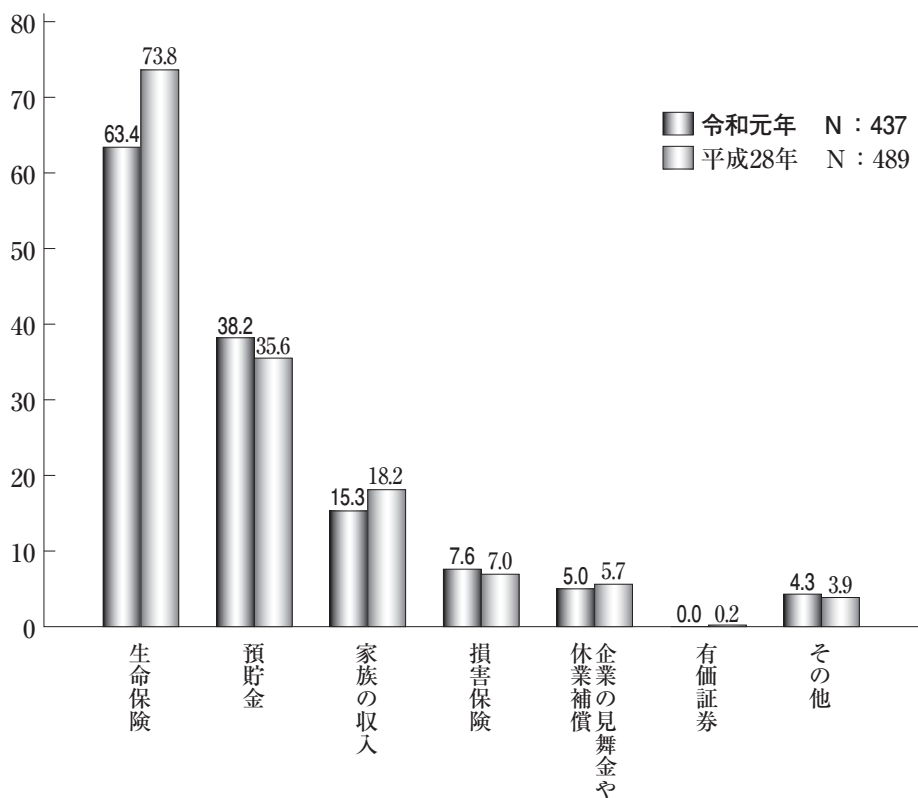
その一番最近の入院で実際に掛かった費用や失われた収入をどのような手段でまかないましたか。この中からいくつかでもお答えください。

- (ア) 民間の生命保険会社や郵便局、JA（農協）などで取り扱っている生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険（ガン保険など、特定の病気を対象とするものを含む）（銀行・証券等の窓口で加入した商品も含む）……………以下「生命保険」
- (イ) 損害保険
- (ウ) 預貯金
- (エ) 株式・債券などの有価証券……………以下「有価証券」
- (オ) 企業の見舞金や休業補償
- (カ) 家族の収入
- (キ) その他
わからない

その結果、「生命保険」が63.4%で最も高く、以下「預貯金」（38.2%）、「家族の収入」（15.3%）の順となっている。（図表Ⅱ－23）

〈図表Ⅱ－23〉 直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段

（複数回答，単位：％）



年齢別にみると、30歳代では「企業の見舞金や休業補償」が、60歳代では「損害保険」が、それぞれ高くなっている。(図表Ⅱ－24)

〈図表Ⅱ－24〉 直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段〔年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	生命保険	預貯金	家族の収入	損害保険	企業の見舞金 や休業補償	有価証券	その他
全 体	437	63.4	38.2	15.3	7.6	5.0	0.0	4.3
20歳代	23	43.5▲	39.1	26.1	8.7	4.3	0.0	4.3
30歳代	57	68.4	35.1	19.3	1.8	10.5	0.0	5.3
40歳代	89	68.5	36.0	20.2	5.6	5.6	0.0	5.6
50歳代	107	69.2	32.7	11.2	4.7	5.6	0.0	3.7
60歳代	159	57.9	44.0	12.6	11.9	2.5	0.0	3.8

(8) 直近の入院時の生命保険の充当割合

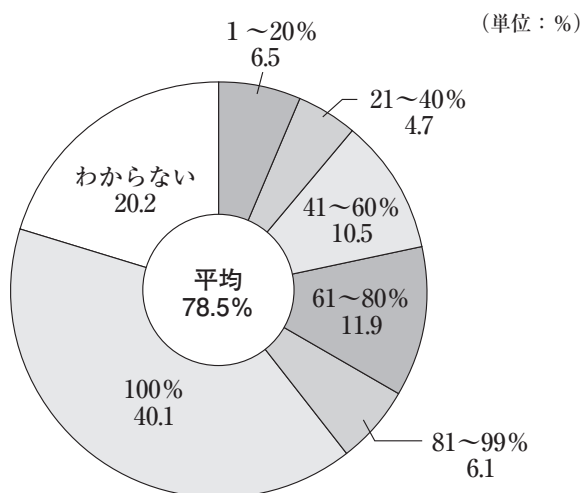
自己負担費用や逸失収入の充当手段として生命保険を利用した人に、実際に掛かった費用や失われた収入全体に対する生命保険の充当割合について以下のように尋ねた。

生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険の給付金でまかなった金額は、入院で実際に掛かった費用や失われた収入全体の中の何%ぐらいでしたか。

約□□□%
わからない

その結果、費用総額に対する生命保険の充当割合は78.5%となっている。充当割合の分布をみると、「100%」が40.1%、「61～80%」が11.9%、「41～60%」が10.5%となっている。(図表Ⅱ-25)

〈図表Ⅱ-25〉 直近の入院時の生命保険の充当割合



N : 277

年齢別にみても、大きな差はみられなかった。(図表Ⅱ-26)

〈図表Ⅱ-26〉 直近の入院時の生命保険の充当割合〔年齢別〕

(単位：%)

	N	1～20%	21～40%	41～60%	61～80%	81～99%	100%	わからない	平均 (%)
全体	277	6.5	4.7	10.5	11.9	6.1	40.1	20.2	78.5
20歳代	10	10.0	10.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	76.5
30歳代	39	7.7	2.6	12.8	10.3	12.8	30.8	23.1	75.5
40歳代	61	4.9	4.9	9.8	14.8	6.6	36.1	23.0	79.6
50歳代	74	6.8	4.1	8.1	10.8	4.1	48.6	17.6	81.9
60歳代	92	6.5	5.4	13.0	10.9	3.3	40.2	20.7	76.5

3. 公的医療保険に対する意識

ここでは、医療保障に対する私的準備の意識や実態を探るうえで前提となる、人々の公的医療保険に対する評価などの意識面について捉えている。

(1) 公的医療保険に対する考え方

自分の医療費を公的医療保険でまかなえると考えているかを捉えるため、以下のように尋ねた。

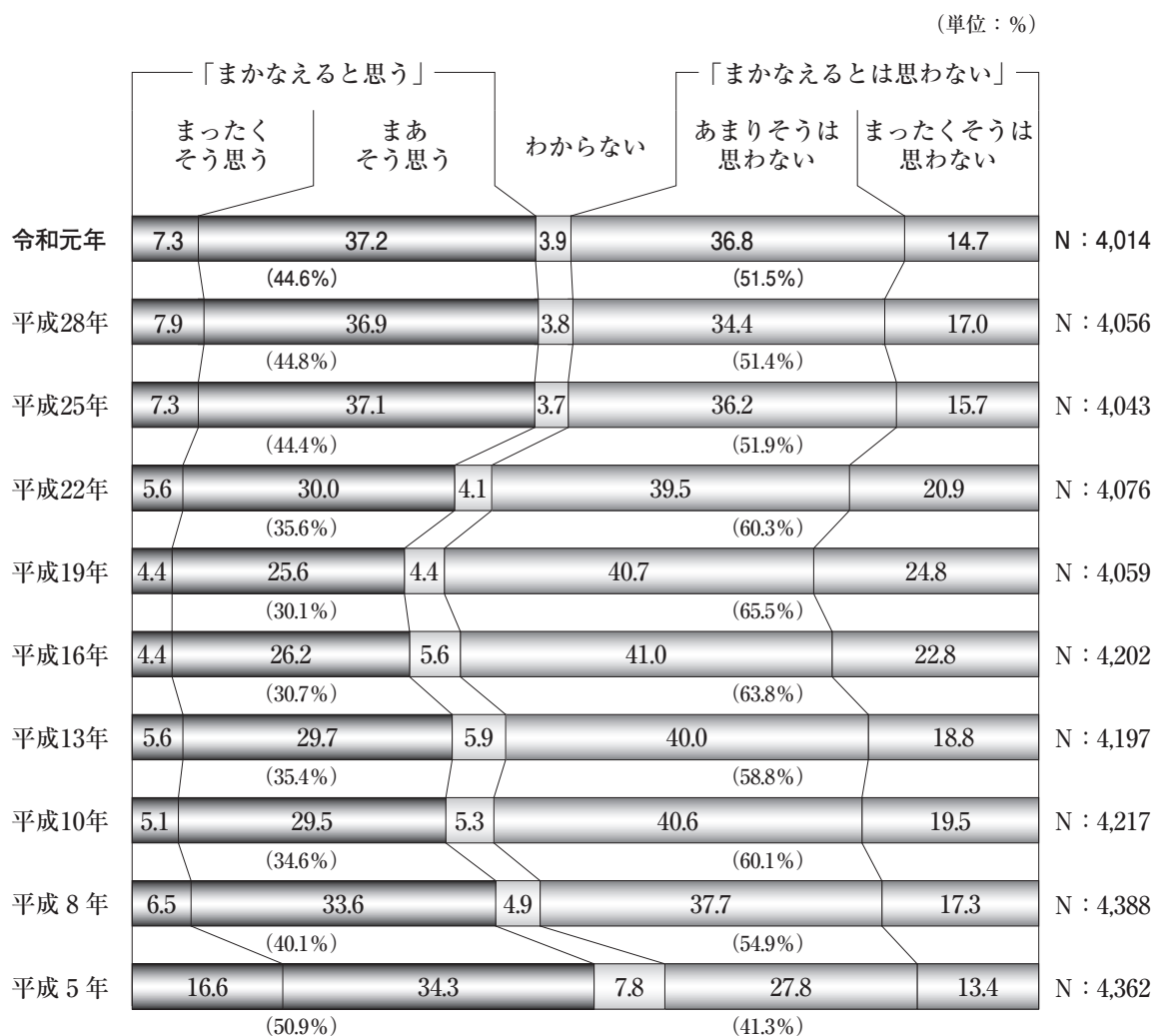
自分の医療費は、今後も公的な健康保険だけで大部分まかなえる。

(ア) まったくそう思う
 (イ) まあそう思う
 (ウ) あまりそうは思わない
 (エ) まったくそうは思わない
 わからない

その結果、「まかなえると思う」（「まったくそう思う」と「まあそう思う」と回答した人の合計）は44.6%、「まかなえるとは思わない」（「あまりそうは思わない」と「まったくそうは思わない」と回答した人の合計）は51.5%となっている。

前回と比較すると、大きな差はみられなかった。（図表Ⅱ－27）

〈図表Ⅱ－27〉 公的医療保険に対する考え方



性別にみると、「まかなえるとは思わない」は男性50.9%、女性52.0%となっている。
 性・年齢別にみると、「まかなえるとは思わない」は男性40歳代、60歳代で高くなっている。(図表Ⅱ-28)

〈図表Ⅱ-28〉 公的医療保険に対する考え方〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N							
		まったく そう思う	まあ そう思う	まかなえる と思う	わからない	まかなえる とは思わ ない	あまりそう は思わ ない	まったく そうは 思わ ない
男 性	1,765	8.7	36.7	45.4	3.7	50.9	35.5	15.4
20歳代	205	10.7	46.8	57.6	5.9	36.6▲	29.3▲	7.3▲
30歳代	296	8.8	42.2	51.0	4.1	44.9▲	33.1	11.8
40歳代	422	5.2▲	35.5	40.8▲	1.7▲	57.6	41.5	16.1
50歳代	389	9.5	32.1▲	41.6	3.9	54.5	41.4	13.1
60歳代	410	10.2	32.4▲	42.7	2.0▲	55.4	31.0▲	24.4
女 性	2,249	6.3	37.6	43.9	4.1	52.0	37.8	14.1
20歳代	197	7.1	46.2	53.3	6.1	40.6▲	32.5	8.1▲
30歳代	383	5.5	41.0	46.5	3.4	50.1	40.5	9.7▲
40歳代	526	5.7	35.4	41.1	4.8	54.2	40.5	13.7
50歳代	511	4.7	37.0	41.7	2.7	55.6	40.5	15.1
60歳代	593	8.8	34.1▲	42.8	3.2	54.0	34.4▲	19.6

(2) 医療保障は公的保障充実志向か自助努力志向か

ケガや病気による治療や入院に対する準備に対して、今後、公的保障の充実を志向しているのか、自助努力での準備を志向しているのかを捉えるため、以下の形式で尋ねた。

ここに、ケガや病気で治療や入院されることになった場合の備えについて、A、B2つの考え方があげられています。あなたのお考えは、A、Bどちらの考え方に近いでしょうか。

A：自助努力で準備していくよりは、今より高い保険料や税金を払ってでも公的医療保険を充実してもらいたい

B：公的医療保険の充実のために今よりも高い保険料や税金を払うよりは、自助努力で準備していきたい

(ア) Aに近い

(イ) どちらかといえばAに近い

(ウ) どちらかといえばBに近い

(エ) Bに近い

わからない

その結果、「公的保障充実志向」（“Aに近い”と“どちらかといえばAに近い”と回答した人の合計）は42.7%、「自助努力志向」（“どちらかといえばBに近い”と“Bに近い”と回答した人の合計）は50.3%となっている。

前回と比較すると、大きな差はみられなかった。（図表Ⅱ－29）

〈図表Ⅱ－29〉 医療保障は公的保障充実志向か自助努力志向か

（単位：％）

A：自助努力で準備していくよりは、
今より高い保険料や税金を払ってでも公的医療保険を充実してもらいたい

B：公的医療保険の充実のために
今よりも高い保険料や税金を払うよりは、自助努力で準備していきたい

	「公的保障充実志向」			「自助努力志向」		N
	Aに近い	どちらかといえばAに近い	わからない	どちらかといえばBに近い	Bに近い	
令和元年	18.6 (42.7%)	24.1	7.0	23.9	26.4 (50.3%)	4,014
平成28年	21.3 (44.5%)	23.3	6.0	21.4	28.1 (49.5%)	4,056
平成25年	19.8 (42.8%)	23.0	6.2	22.6	28.4 (51.0%)	4,043
平成22年	19.7 (46.5%)	26.9	7.0	20.9	25.6 (46.5%)	4,076
平成19年	17.0 (39.0%)	22.0	9.2	24.6	27.2 (51.8%)	4,059
平成16年	14.8 (39.9%)	25.1	11.4	23.2	25.5 (48.7%)	4,202
平成13年	17.1 (41.9%)	24.8	9.3	22.3	26.5 (48.8%)	4,197
平成10年	17.2 (41.3%)	24.1	10.9	22.2	25.6 (47.9%)	4,217

性別にみると、「公的保障充実志向」は男性で44.0%、女性で41.8%となっている。

性・年齢別にみると、「自助努力志向」は男性30歳代、女性60歳代で高くなっている。(図表Ⅱ－30)

〈図表Ⅱ－30〉 医療保障は公的保障充実志向か自助努力志向か〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N							
		Aに近い	どちらかといえばAに近い	公的保障充実志向	わからない	自助努力志向	どちらかといえばBに近い	Bに近い
男 性	1,765	20.4	23.6	44.0	6.6	49.5	23.4	26.1
20歳代	205	19.0	26.3	45.4	5.9	48.8	24.9	23.9
30歳代	296	17.6	22.3	39.9	5.1	55.1	27.4	27.7
40歳代	422	20.4	28.2	48.6	5.5	46.0	24.4	21.6▲
50歳代	389	20.3	22.9	43.2	4.6	52.2	24.7	27.5
60歳代	410	23.2	20.0	43.2	9.3	47.6	17.6▲	30.0
女 性	2,249	17.3	24.5	41.8	7.3	51.0	24.2	26.7
20歳代	197	16.8	27.9	44.7	8.6	46.7	23.4	23.4
30歳代	383	20.1	26.9	47.0	5.2	47.8	22.7	25.1
40歳代	526	15.0	27.4	42.4	6.7	51.0	26.8	24.1
50歳代	511	18.0	24.3	42.3	7.4	50.3	23.1	27.2
60歳代	593	17.4	18.5▲	35.9▲	8.1	56.0	24.6	31.4

4. 医療保障に対する私的準備状況

ここでは、医療保障に対する私的な経済的準備の状況を捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたのご家庭では、あなたご自身がケガや病気で治療や入院されることになった場合に備えて、公的医療保険以外で、現在経済的な準備をしていますか。この中に準備しているものがあれば、いくつでもお答えください。

- (ア) 民間の生命保険会社や郵便局、JA（農協）などで取り扱っている生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険（ガン保険など、特定の病気を対象とするものを含む）（銀行・証券等の窓口で加入した商品も含む）
.....以下「生命保険」
- (イ) 損害保険
- (ウ) 預貯金
- (エ) 株式・債券などの有価証券.....以下「有価証券」
- (オ) その他
- (カ) 特別な準備はしていない.....以下「準備していない」
わからない

その結果、「準備している」（上記の選択肢で（ア）～（オ）のいずれかに回答した人）は85.0%、「準備していない」は12.9%となっている。

具体的な準備手段をみると、「生命保険」が最も高く73.1%、以下「預貯金」（41.8%）、「損害保険」（20.6%）の順となっている。

前回と比較すると、「準備していない」が1.2ポイント減少している。（図表Ⅱ－31）

〈図表Ⅱ－31〉 医療保障に対する私的準備状況

（複数回答、単位：％）

	N						準備している	準備していない	わからない
		生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	その他			
令和元年	4,014	73.1	20.6	41.8	5.8	0.4	85.0	12.9	2.1
平成28年	4,056	72.9	20.9	42.0	5.6	0.5	84.2	14.1	1.7
平成25年	4,043	70.5	19.5	38.3	5.1	0.6	82.8	15.9	1.3
平成22年	4,076	71.0	19.8	38.1	5.4	0.5	82.2	15.9	1.9
平成19年	4,059	70.3	24.8	37.7	5.5	0.5	82.0	16.5	1.4
平成16年	4,202	68.0	21.8	37.5	4.1	0.3	79.3	17.2	3.5
平成13年	4,197	66.9	25.9	40.2	4.6	0.4	80.2	16.9	2.8
平成10年	4,217	70.4	25.9	42.5	4.4	0.3	81.8	15.8	2.4
平成8年	4,388	70.1	22.9	40.7	4.3	0.8	82.4	16.1	1.5
平成5年	4,362	67.0	23.2	42.3	5.5	0.4	82.5	15.8	1.7

性別にみると、「準備している」は女性で高くなっている。

性・年齢別にみると、「準備している」は男性では40～60歳代で、女性では40～50歳代で高くなっている。具体的な準備手段をみると、「生命保険」は男女とも40～50歳代で高く、「預貯金」、「有価証券」は男女とも概ね高年齢層ほど高くなっている。(図表Ⅱ－32)

〈図表Ⅱ－32〉 医療保障に対する私的準備状況〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N						準備して	準備して	わからない
		生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	その他	いる	いない	
男 性	1,765	70.8	22.8	40.8	7.6	0.6	83.3	13.8	2.9
20歳代	205	46.8▲	9.3▲	34.1▲	2.9▲	1.0	64.4▲	29.3	6.3
30歳代	296	74.3	23.3	44.6	7.1	0.7	85.1	11.8	3.0
40歳代	422	79.1	25.4	38.6	8.1	0.5	89.1	9.7▲	1.2▲
50歳代	389	79.2	28.8	41.9	10.3	0.3	88.9	10.0▲	1.0▲
60歳代	410	69.8	23.2	46.3	8.3	0.5	86.6	12.4	1.0▲
女 性	2,249	74.9	18.8	42.6	4.3	0.2	86.3	12.1	1.5
20歳代	197	52.8▲	9.6▲	31.5▲	2.0	0.0	65.5▲	28.9	5.6
30歳代	383	78.1	15.1▲	41.0	3.9	0.0	88.0	11.2	0.8
40歳代	526	80.0	19.8	35.7▲	3.6	0.0	89.4	10.1	0.6▲
50歳代	511	80.2	23.3	46.2	4.7	0.4	91.8	8.2▲	0.0▲
60歳代	593	74.2	20.2	52.4	5.7	0.5	88.2	11.1	0.7

性・本人職業別にみると、「準備している」は男性では商工サービス業、公務員、中企業被用者、大企業被用者で、女性では商工サービス業、公務員でそれぞれ高くなっている。

性・本人年収別では、男女とも概ね高年収層ほど「準備している」が高くなっている。(図表Ⅱ-33)

〈図表Ⅱ-33〉 医療保障に対する私的準備状況〔性・本人職業別、性・本人年収別〕

(複数回答, 単位: %)

		N	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	その他	準備している	準備していない	わからない
男	性	1,765	70.8	22.8	40.8	7.6	0.6	83.3	13.8	2.9
本人職業	自営者	265	79.2	26.8	41.9	8.7	0.8	89.1	10.2	0.8▲
	農林漁業	45	73.3	17.8	31.1	4.4	0.0	75.6	22.2	2.2
	商工サービス業	187	80.2	31.0	44.9	9.6	1.1	90.9	8.6▲	0.5▲
	常雇被用者	1,095	75.9	24.2	43.8	7.9	0.6	87.9	10.2▲	1.8▲
	公務員	123	83.7	22.0	54.5	8.1	0.0	94.3	4.9▲	0.8
	民間企業被用者	972	74.9	24.5	42.5	7.8	0.7	87.1	10.9▲	2.0▲
	小企業被用者	203	71.4	24.1	33.5▲	3.9▲	0.5	79.3	18.7	2.0
	中企業被用者	441	74.6	23.6	43.3	7.3	0.5	88.0	10.2▲	1.8
	大企業被用者	319	78.4	26.0	47.6	11.3	1.3	91.8	6.6▲	1.6
	非正規社員 無職	112 197	60.7▲ 57.4▲	25.0 16.8▲	29.5▲ 41.6	4.5 9.1	0.0 0.0	76.8 76.1▲	21.4 21.3	1.8 2.5
本人年収	収入はない	105	39.0▲	10.5▲	17.1▲	3.8	1.9	48.6▲	36.2	15.2
	300万円未満	421	56.3▲	15.4▲	32.1▲	4.5▲	0.5	71.7▲	24.2	4.0
	300～500万円未満	433	72.1	24.0	41.3	5.5	0.7	85.7	12.0	2.3
	500～700万円未満	275	86.5	26.9	47.6	6.9	0.7	95.6	4.0▲	0.4▲
	700～1,000万円未満	198	86.4	32.8	57.6	18.7	0.5	96.0	4.0▲	0.0▲
	1,000万円以上	67	85.1	40.3	68.7	26.9	1.5	100.0	0.0▲	0.0
女	性	2,249	74.9	18.8	42.6	4.3	0.2	86.3	12.1	1.5
本人職業	自営者	156	79.5	24.4	50.6	8.3	0.6	93.6	5.8▲	0.6
	農林漁業	23	65.2	17.4	39.1	13.0	0.0	82.6	13.0	4.3
	商工サービス業	115	81.7	27.0	55.7	7.8	0.0	96.5	3.5▲	0.0
	常雇被用者	631	76.7	20.0	45.3	3.6	0.3	86.8	12.7	0.5▲
	公務員	65	86.2	15.4	64.6	7.7	0.0	95.4	4.6	0.0
	民間企業被用者	566	75.6	20.5	43.1	3.2	0.4	85.9	13.6	0.5▲
	小企業被用者	121	73.6	28.1	41.3	0.8	0.0	88.4	10.7	0.8
	中企業被用者	312	74.4	17.3	39.7	2.2	0.6	83.7	15.7	0.6
	大企業被用者	123	82.1	20.3	54.5	8.1	0.0	89.4	10.6	0.0
	非正規社員 無職	706 677	77.6 72.8	19.1 16.8	38.0▲ 45.6	3.5 4.9	0.0 0.3	88.0 86.1	11.2 13.0	0.8 0.9
本人年収	収入はない	449	69.0▲	14.7▲	40.8	4.0	0.2	82.0▲	14.5	3.6
	100万円未満	563	75.1	18.7	42.3	4.4	0.2	87.0	11.4	1.6
	100～300万円未満	689	73.3	20.8	40.2	3.8	0.1	86.1	13.6	0.3▲
	300～500万円未満	217	77.4	20.7	52.5	5.1	0.0	89.4	10.1	0.5
	500万円以上	87	93.1	27.6	66.7	10.3	1.1	96.6	3.4▲	0.0

5. 医療保障としての生命保険

前節「4. 医療保障に対する私的準備状況」でみたように、「生命保険」による準備割合は約7割となっており、私的な経済的準備の中心的役割を果たしているといえる。

本節では、医療保障としての生命保険という観点から、疾病入院特約の付加された生命保険（個人年金保険や生命共済を含む）、および医療保険について、加入率および疾病入院給付金日額の実態をみていく。

(1) 疾病入院給付金の支払われる生命保険加入率

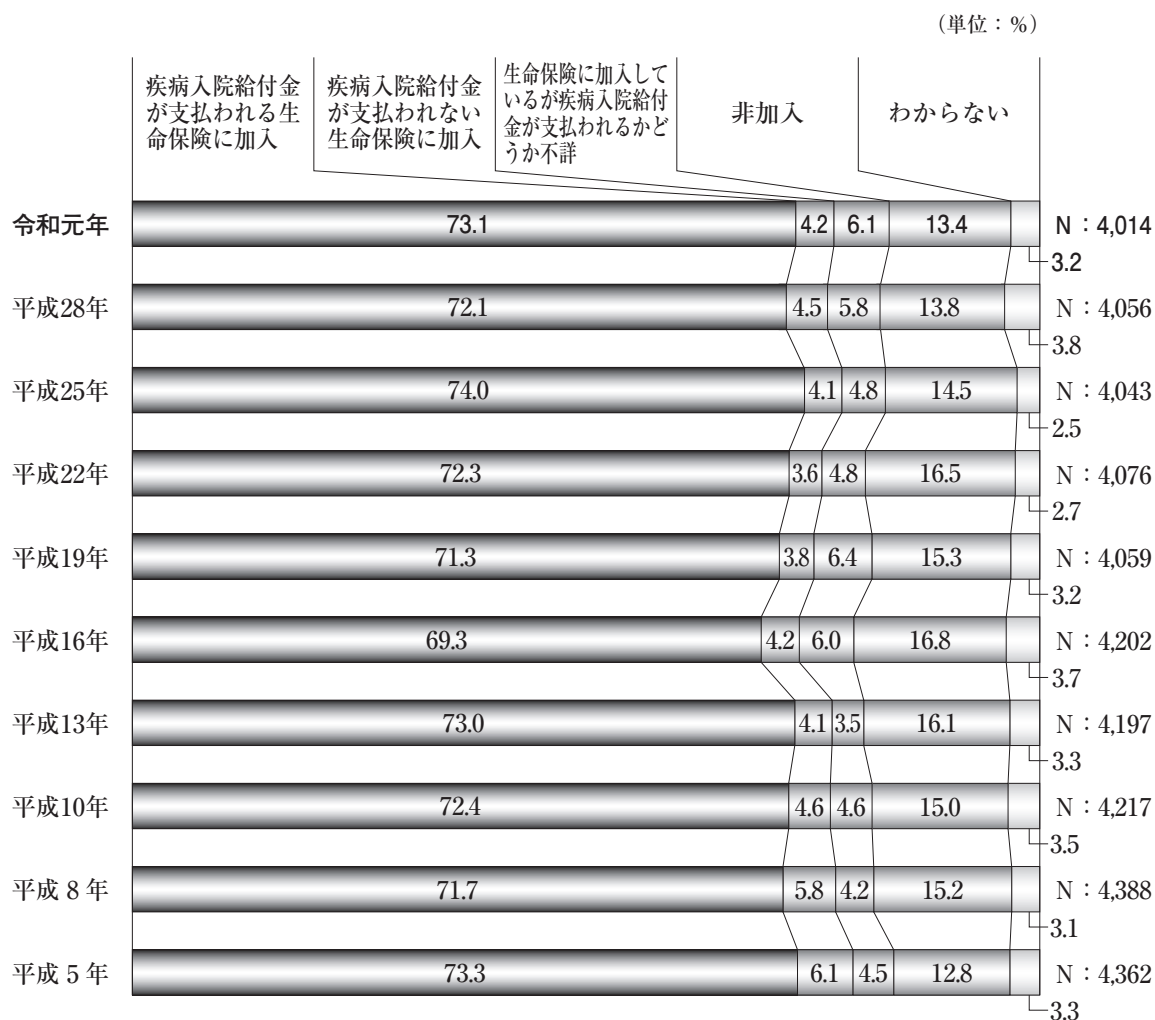
① 疾病入院給付金の支払われる生命保険加入率（全生保）

民間の生命保険会社や郵便局、JA（農協）、県民共済・生協等で取り扱っている生命保険（個人年金保険や生命共済を含む）のうち、疾病入院給付金が支払われる生命保険の加入率は、73.1%となっている。

前回と比較すると、大きな差はみられなかった。（図表Ⅱ－34）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

〈図表Ⅱ－34〉 疾病入院給付金の有無（全生保）



次に、生命保険および個人年金保険加入者に限定して疾病入院給付金が支払われる生命保険の加入率をみると、87.6%となっている。

前回と比較すると、大きな差はみられなかった。(図表Ⅱ-35)

〈図表Ⅱ-35〉 疾病入院給付金の有無(全生保)

[集計ベース：生命保険、個人年金保険加入者]

(単位：%)

年次	疾病入院給付金が支払われる生命保険に加入	生命保険に加入しているが疾病入院給付金が支払われるかどうか不詳		N
		疾病入院給付金が支払われる生命保険に加入	疾病入院給付金が支払われない生命保険に加入	
令和元年	87.6	5.0	7.3	N : 3,348
平成28年	87.5	5.5	7.0	N : 3,344
平成25年	89.2	5.0	5.8	N : 3,352
平成22年	89.6	4.5	5.9	N : 3,290
平成19年	87.5	4.7	7.8	N : 3,309
平成16年	87.2	5.2	7.6	N : 3,341
平成13年	90.5	5.1	4.4	N : 3,383
平成10年	88.8	5.7	5.6	N : 3,440
平成8年	87.8	7.1	5.1	N : 3,585
平成5年	87.3	7.3	5.4	N : 3,663

②疾病入院給付金の支払われる生命保険加入率（民保）

次に民間の生命保険および個人年金保険加入者に限定して疾病入院給付金が支払われる生命保険の加入率をみると、86.8%となっている。

前回と比較すると、大きな差はみられなかった。（図表Ⅱ－36）

〈図表Ⅱ－36〉 疾病入院給付金の有無（民保）
 [集計ベース：民保の生命保険・個人年金保険加入者]

(単位：%)

	疾病入院給付金が支払われる民間の生命保険に加入	疾病入院給付金が支払われない民間の生命保険に加入	民間の生命保険に加入しているが疾病入院給付金が支払われるかどうか不詳	
令和元年	86.8	7.8	5.5	N：2,807
平成28年	86.5	8.3	5.2	N：2,772
平成25年	88.1	8.1	3.9	N：2,765
平成22年	87.9	7.9	4.3	N：2,555
平成19年	87.6	7.5	4.9	N：2,421
平成16年	86.4	7.3	6.3	N：2,379
平成13年	87.6	8.9	3.6	N：2,391
平成10年	86.1	9.5	4.4	N：2,429
平成8年	84.8	10.1	5.1	N：2,633
平成5年	83.4	11.6	5.1	N：2,687

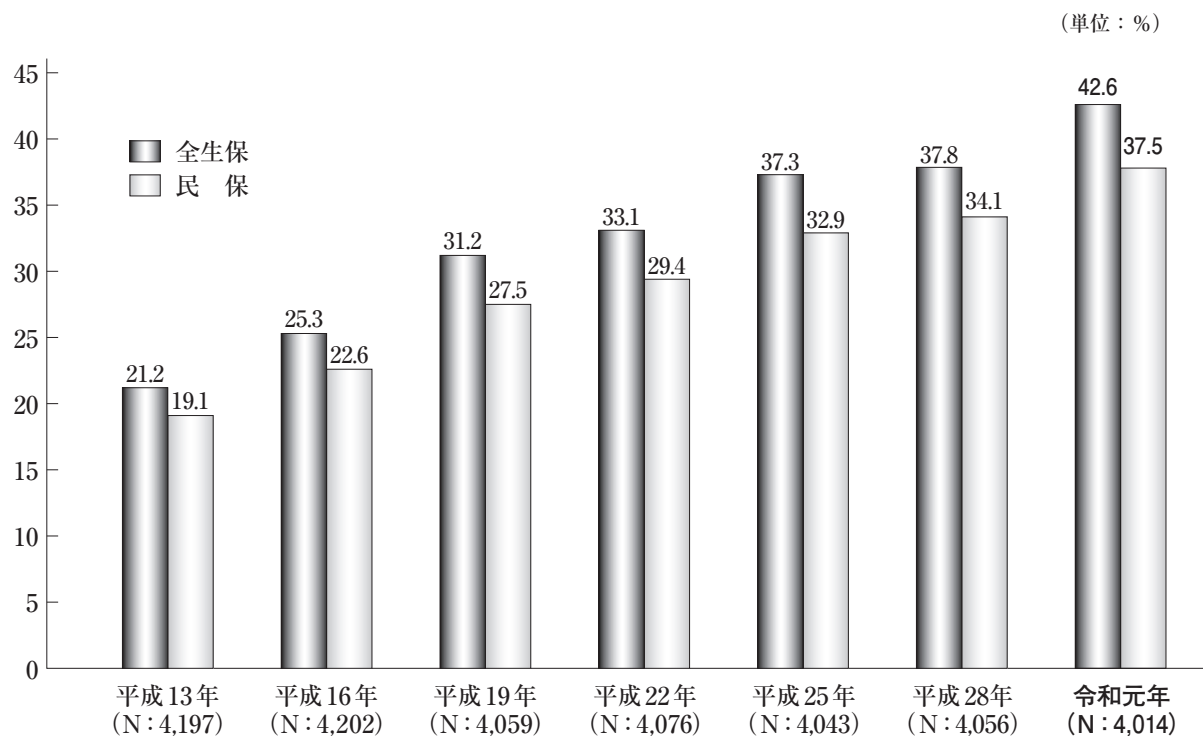
*平成22年調査以降はかんぽ生命を含む

③ガン保険・ガン特約の加入率

民間の生命保険会社やJA（農協）、県民共済・生協等で取り扱っているガン保険・ガン特約の加入率は、42.6%となっている。また、民保は37.5%となっている。

時系列でみると、全生保・民保とも平成13年以降増加傾向にある。（図表Ⅱ－37）

〈図表Ⅱ－37〉 ガン保険・ガン特約の加入率



性別にみると、ガン保険・ガン特約の加入率は、全生保が男性で43.2%、女性で42.2%となっている。民保は男性で38.6%、女性で36.5%となっている。

性・年齢別にみると、全生保、民保ともに男女とも40歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－38）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

〈図表Ⅱ－38〉 ガン保険・ガン特約の加入率〔性・年齢別〕

(単位：%)

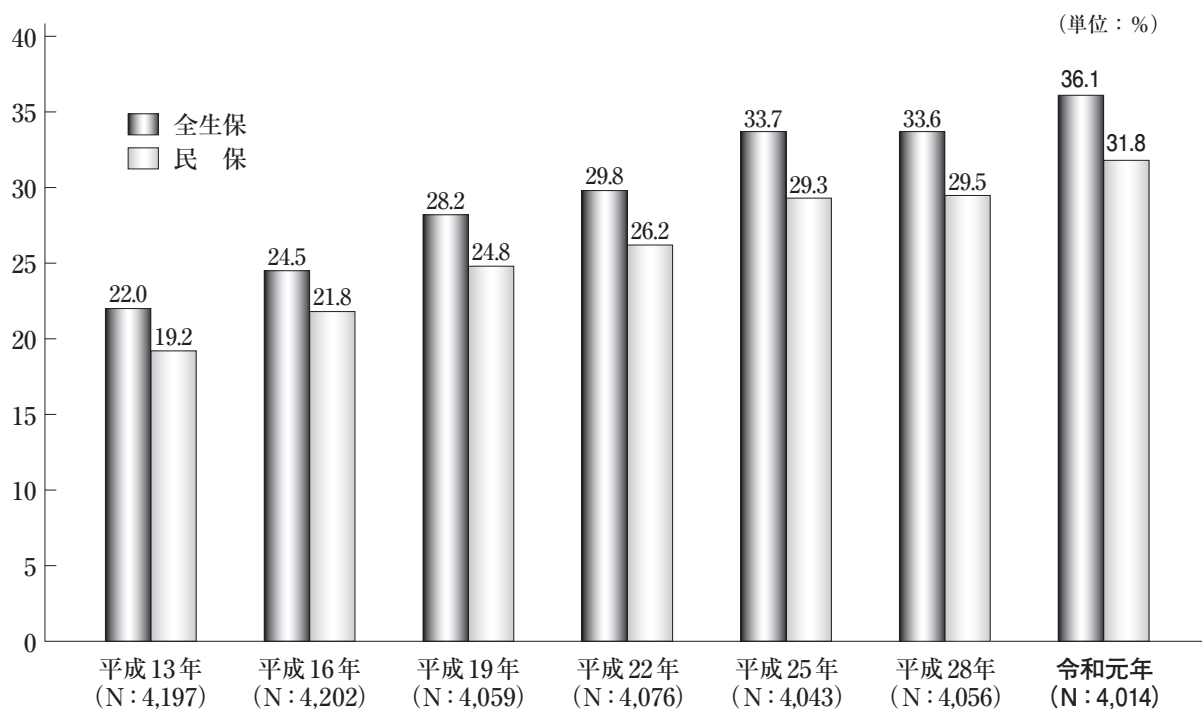
	N	全生保	民保
男 性	1,765	43.2	38.6
20歳代	205	22.0▲	21.0▲
30歳代	296	46.3	39.9
40歳代	422	52.8	48.3
50歳代	389	46.8	41.1
60歳代	410	42.2	37.8
女 性	2,249	42.2	36.5
20歳代	197	28.9▲	25.9▲
30歳代	383	46.5	39.7
40歳代	526	49.2	43.0
50歳代	511	43.1	38.7
60歳代	593	39.0	32.4▲

④特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率

民間の生命保険会社やJA（農協）、県民共済・生協等で取り扱っている特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率は、36.1%となっている。また、民保は31.8%となっている。

時系列でみると、全生保・民保とも平成13年以降増加傾向が続いている。（図表Ⅱ－39）

〈図表Ⅱ－39〉 特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率



性別にみると、特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率は、民保で男性が女性より3.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、全生保は男性40～50歳代、女性50歳代で、民保は男性30～50歳代、女性50歳代で、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－40）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

〈図表Ⅱ－40〉 特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	全生保	民保
男 性	1,765	37.7	33.5
20歳代	205	20.5▲	18.5▲
30歳代	296	42.6	38.9
40歳代	422	44.1	40.5
50歳代	389	45.5	40.1
60歳代	410	32.7▲	27.1▲
女 性	2,249	34.9	30.5
20歳代	197	20.8▲	20.3▲
30歳代	383	36.0	33.2
40歳代	526	37.3	32.7
50歳代	511	41.1	36.0
60歳代	593	33.4	27.3▲

⑤生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率

民間の生命保険会社やJA（農協）、県民共済・生協等では取り扱っている生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率は、9.1%となっている。また、民保は8.5%となっている。（図表Ⅱ－41）

〈図表Ⅱ－41〉 生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率

（単位：％）

	N	全生保	民保
令和元年	4,014	9.1	8.5

性別にみると、生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率は、全生保、民保ともに男性が女性より高くなっている。

性・年齢別にみると、全生保、民保ともに男性30～40歳代、女性30歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－42）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

〈図表Ⅱ－42〉 生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	全生保	民保
男 性	1,765	11.6	10.9
20歳代	205	8.8	8.8
30歳代	296	18.9	17.9
40歳代	422	17.1	16.1
50歳代	389	9.8	8.7
60歳代	410	5.1▲	4.6▲
女 性	2,249	7.2	6.7
20歳代	197	6.6	6.6
30歳代	383	10.2	9.7
40歳代	526	7.6	7.2
50歳代	511	8.2	7.8
60歳代	593	4.6▲	3.7▲

(2) 疾病入院給付金日額

① 疾病入院給付金日額 (全生保)

前述 (1) ①において「疾病入院給付金の支払われる生命保険に加入」とした人の疾病入院給付金日額の平均は、全体で9,800円、男性で10,900円、女性で9,100円となっている。

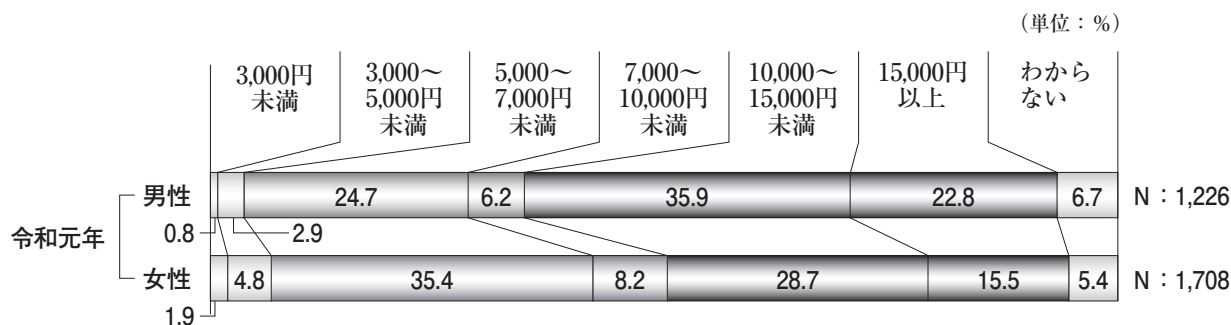
前回と比較すると、大きな差はみられなかった。

金額の分布をみると、男性では「10,000～15,000円未満」、女性では「5,000～7,000円未満」が最も多く、3割を超えている。(図表Ⅱ-43)

〈図表Ⅱ-43〉 疾病入院給付金日額 (全生保) [性別]
[集計ベース：疾病入院給付金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者]

(単位：円, () 内の数値はN)

	全体	男性	女性
令和元年	9,800 (2,934)	10,900 (1,226)	9,100 (1,708)
平成28年	9,900 (2,925)	10,800 (1,213)	9,200 (1,712)
平成25年	9,800 (2,990)	10,900 (1,275)	9,000 (1,715)
平成22年	10,000 (2,948)	11,000 (1,305)	9,200 (1,643)
平成19年	10,200 (2,896)	11,800 (1,312)	9,000 (1,584)
平成16年	9,200 (2,913)	10,500 (1,299)	8,200 (1,614)
平成13年	8,800 (3,062)	10,100 (1,432)	7,800 (1,630)
平成10年	8,100 (3,053)	9,500 (1,453)	6,900 (1,600)
平成8年	8,200 (3,148)	9,400 (1,532)	7,100 (1,616)
平成5年	8,000 (3,197)	9,300 (1,560)	6,700 (1,637)



性・年齢別にみると、男性では50歳代（11,700円）、女性では50歳代（9,500円）で最も高くなっている。

分布をみると、男性では20歳代で「3,000円未満」、「3,000～5,000円未満」が高くなっている。一方、女性では20歳代、60歳代で「3,000円未満」、40歳代で「10,000～15,000円未満」が高くなっている。（図表Ⅱ－44）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

〈図表Ⅱ－44〉 疾病入院給付金日額（全生保）〔性・年齢別〕

〔集計ベース：疾病入院給付金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者〕

（単位：％）

	N	3,000円 未満	3,000～ 5,000円 未満	5,000～ 7,000円 未満	7,000～ 10,000円 未満	10,000～ 15,000円 未満	15,000円 以上	わからない	平均 (円)
男 性	1,226	0.8	2.9	24.7	6.2	35.9	22.8	6.7	10,900
20歳代	92	3.3	6.5	29.3	8.7	33.7	12.0▲	6.5	9,000
30歳代	205	0.0	1.5	24.4	5.4	38.5	24.4	5.9	11,000
40歳代	328	0.6	1.8	25.3	6.4	37.5	23.8	4.6	10,900
50歳代	300	0.7	2.0	22.3	4.7	35.7	25.3	9.3	11,700
60歳代	294	1.0	4.4	24.8	7.1	33.3	22.1	7.1	10,600
女 性	1,708	1.9	4.8	35.4	8.2	28.7	15.5	5.4	9,100
20歳代	101	5.0	5.0	39.6	9.9	30.7	5.9▲	4.0	7,800
30歳代	284	0.7	4.6	39.4	6.7	28.2	16.9	3.5	9,000
40歳代	431	1.6	3.0▲	33.4	10.2	32.9	14.4	4.4	9,000
50歳代	411	0.5▲	4.9	34.8	7.1	29.0	16.3	7.5	9,500
60歳代	467	3.0	6.4	34.0	7.9	24.8▲	17.6	6.2	9,300

②疾病入院給付金日額（民保）

次に疾病入院給付金の支払われる民間の生命保険加入者の疾病入院給付金日額の平均は、全体で9,700円、男性で10,700円、女性で8,900円となっている。

前回と比較すると、大きな差はみられなかった。（図表Ⅱ－45）

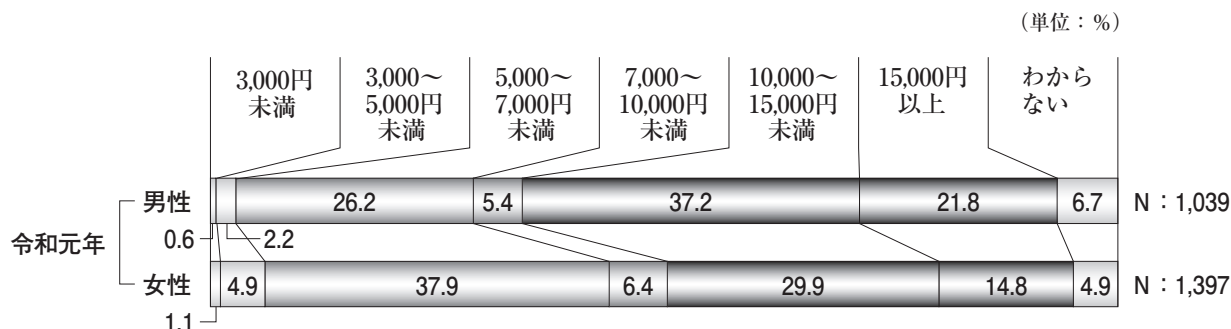
なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

〈図表Ⅱ－45〉 疾病入院給付金日額（民保）〔性別〕
 [集計ベース：疾病入院給付金が支払われる民保の生命保険・個人年金保険加入者]

（単位：円，（ ）内の数値はN）

	全体	男性	女性
令和元年	9,700 (2,436)	10,700 (1,039)	8,900 (1,397)
平成28年	9,600 (2,399)	10,700 (1,015)	8,900 (1,384)
平成25年	9,500 (2,435)	10,500 (1,076)	8,800 (1,359)
平成22年	9,600 (2,245)	10,700 (1,050)	8,600 (1,195)
平成19年	9,700 (2,120)	11,000 (1,050)	8,500 (1,070)
平成16年	8,400 (2,056)	9,500 (1,001)	7,300 (1,055)
平成13年	7,900 (2,094)	9,000 (1,076)	6,800 (1,018)
平成10年	7,200 (2,092)	8,100 (1,126)	6,200 (966)
平成 8年	7,400 (2,233)	8,200 (1,197)	6,500 (1,036)
平成 5年	7,000 (2,240)	7,900 (1,195)	6,000 (1,045)

*平成22年調査以降はかんぼ生命を含む



*かんぼ生命を含む

(3) 疾病入院給付金日額の必要額

ケガや病気による入院時の医療費等への備えとして、疾病入院給付金日額の必要額を捉えるために、以下のように尋ねた。

あなたご自身がケガや病気で入院された場合に、医療費等への備えとして、1日につきいくらぐらいの入院給付金が必要とお考えですか。

1日約□□□000円の入院給付金が必要
わからない

その結果、平均額は全体で11,000円となっており、時系列でも大きな変動はみられない。

性別にみると、平均額は男性で12,400円、女性で10,000円となっている。金額の分布をみると、「10,000～15,000円未満」の割合は、男性で41.4%、女性で44.2%と最も高くなっている。

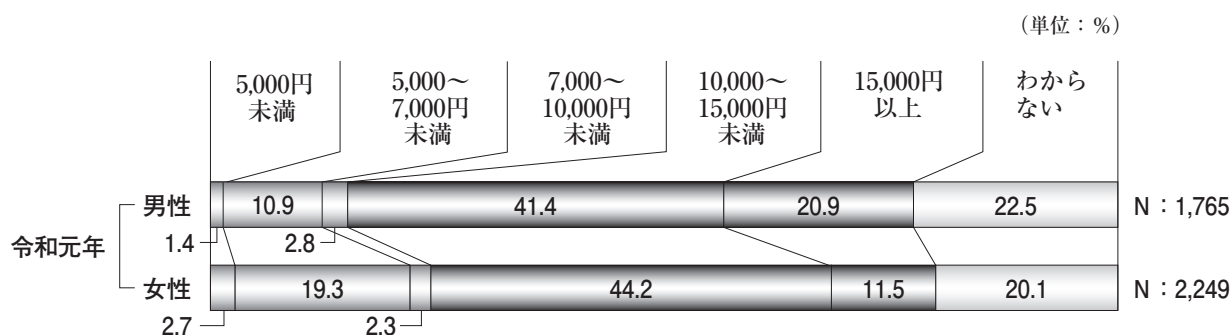
加入している疾病入院給付金日額（66ページ）と比較すると、男性で1,500円、女性で900円の不足となっている。（図表Ⅱ－46）

〈図表Ⅱ－46〉 疾病入院給付金日額の必要額〔性別〕

（単位：円，（ ）内の数値はN）

	全体	男性	女性
令和元年	11,000 (4,014)	12,400 (1,765)	10,000 (2,249)
平成28年	10,900 (4,056)	11,700 (1,746)	10,300 (2,310)
平成25年	11,000 (4,043)	11,700 (1,769)	10,500 (2,274)
平成22年	11,400 (4,076)	12,300 (1,848)	10,600 (2,228)
平成19年	11,800 (4,059)	12,600 (1,862)	11,200 (2,197)

* 平成25年調査までは「必要額」ではなく「希望する額」として質問



性・年齢別にみると、男性では30歳代、50歳代で13,000円、女性では20歳代で12,100円と高くなっている。

分布をみると、男性では40歳代で「10,000～15,000円未満」、60歳代で「5,000～7,000円未満」が高くなっている。また、女性では40歳代で「5,000～7,000円未満」、50歳代で「10,000～15,000円未満」が高くなっている。(図表Ⅱ－47)

〈図表Ⅱ－47〉 疾病入院給付金日額の必要額〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	5,000円未満	5,000～7,000円未満	7,000～10,000円未満	10,000～15,000円未満	15,000円以上	わからない	平均値(円)
男 性	1,765	1.4	10.9	2.8	41.4	20.9	22.5	12,400
20歳代	205	1.0	12.2	1.5	32.2▲	13.7▲	39.5	12,600
30歳代	296	0.7	8.8	4.4	39.2	22.6	24.3	13,000
40歳代	422	1.2	10.9	2.6	47.4	23.5	14.5▲	12,200
50歳代	389	1.8	8.0▲	3.3	44.7	23.7	18.5▲	13,000
60歳代	410	2.2	14.9	2.2	41.2	19.0	20.5	11,500
女 性	2,249	2.7	19.3	2.3	44.2	11.5	20.1	10,000
20歳代	197	2.5	13.2▲	1.0	28.9▲	11.7	42.6	12,100
30歳代	383	2.1	17.2	1.8	42.6	12.3	24.0	10,600
40歳代	526	2.1	23.0	3.0	47.1	9.9	14.8▲	9,500
50歳代	511	3.5	18.2	2.7	50.5	13.5	11.5▲	10,000
60歳代	593	3.2	20.7	1.9	44.2	10.6	19.4	9,400

(4) 疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金日額（全生保）の割合

前項でみた疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金日額の割合をみると、89.1%と9割に近い。性別にみると、男性は87.9%、女性は91.0%となっている。(図表Ⅱ－48)

〈図表Ⅱ－48〉 疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金日額（全生保）の割合〔性別〕

(単位：円, () 内の数値はN)

	全体			男性			女性		
	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合(%)*	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合(%)*	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合(%)*
令和元年	11,000(4,014)	9,800(2,934)	89.1	12,400(1,765)	10,900(1,226)	87.9	10,000(2,249)	9,100(1,708)	91.0
平成28年	10,900(4,056)	9,900(2,925)	90.8	11,700(1,746)	10,800(1,213)	92.3	10,300(2,310)	9,200(1,712)	89.3
平成25年	11,000(4,043)	9,800(2,990)	89.1	11,700(1,769)	10,900(1,275)	93.2	10,500(2,274)	9,000(1,715)	85.7
平成22年	11,400(4,076)	10,000(2,948)	87.7	12,300(1,848)	11,000(1,305)	89.4	10,600(2,228)	9,200(1,643)	86.8
平成19年	11,800(4,059)	10,200(2,896)	86.4	12,600(1,862)	11,800(1,312)	93.7	11,200(2,197)	9,000(1,584)	80.4

*平均加入金額を平均必要額で除して計算

*平成25年調査までは「必要額」ではなく「希望する額」として質問

6. 医療保障に対する充足感

前述「4. 医療保障に対する私的準備状況」に公的保障や企業保障を加えた、医療保障に対する充足感を捉えるために、以下のように尋ねた。

現在の備えと公的医療保険や企業保障などをあわせると、医療費に対する準備は十分だとお考えですか。

- (ア) 十分足りている
- (イ) どちらかといえば足りている
- (ウ) どちらかといえば足りない
- (エ) まったく足りない
- わからない

その結果、「充足感あり」（“十分足りている”と“どちらかといえば足りている”と回答した人の合計）は43.4%、「充足感なし」（“どちらかといえば足りない”と“まったく足りない”と回答した人の合計）は49.0%と、5割近くが不足感を感じている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表Ⅱ－49）

〈図表Ⅱ－49〉 医療保障に対する充足感

（単位：％）

	「充足感あり」			「充足感なし」		N
	十分足りている	どちらかといえば足りている	わからない	どちらかといえば足りない	まったく足りない	
令和元年	6.9 (43.4%)	36.5	7.6	38.2 (49.0%)	10.8	3,928
平成28年	7.2 (42.9%)	35.7	5.9	37.8 (51.1%)	13.3	3,987
平成25年	6.8 (37.9%)	31.1	7.2	41.2 (54.9%)	13.6	3,989
平成22年	4.7 (32.7%)	28.0	7.5	41.8 (59.8%)	18.1	3,999
平成19年	4.2 (29.2%)	25.0	8.1	45.7 (62.7%)	17.0	4,001
平成16年	4.1 (30.2%)	26.1	10.1	43.4 (59.7%)	16.3	4,055
平成13年	4.9 (31.1%)	26.2	9.7	44.9 (59.2%)	14.3	4,078
平成10年	4.1 (29.5%)	25.4	10.7	45.5 (59.9%)	14.4	4,115

性・年齢別にみると、「充足感あり」は女性50歳代で46.8%と高くなっている。(図表Ⅱ－50)

〈図表Ⅱ－50〉 医療保障に対する充足感〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	充足感						
		十分 足りている	どちらか いえば 足りている	充足感 あり	わからない	充足感 なし	どちらか いえば 足りない	まったく 足りない
男 性	1,713	8.9	34.9	43.8	7.3	48.9	38.0	10.9
20歳代	192	6.3	28.1▲	34.4▲	12.0	53.6	38.0	15.6
30歳代	287	9.8	37.6	47.4	6.3	46.3	37.6	8.7
40歳代	417	7.9	39.3	47.2	5.0▲	47.7	39.6	8.2▲
50歳代	385	9.6	34.0	43.6	6.0	50.4	39.5	10.9
60歳代	406	10.6	33.3	43.8	7.4	48.8	35.7	13.1
女 性	2,215	5.3	37.7	43.0	7.9	49.1	38.3	10.8
20歳代	186	6.5	32.8	39.2	14.5	46.2	32.8	13.4
30歳代	380	5.3	37.1	42.4	5.8	51.8	39.7	12.1
40歳代	523	5.0	39.8	44.7	6.5	48.8	38.6	10.1
50歳代	511	6.1	40.7	46.8	5.5▲	47.7	38.2	9.6
60歳代	589	4.2	35.7	39.9	9.3	50.8	40.1	10.7

性・本人職業別にみると、「充足感なし」は男性では小企業被用者で、女性では中企業被用者、非正規社員で高くなっている。

性・本人年収別にみると、「充足感なし」は男性では500万円未満の層で高くなっている。また、女性では300万円未満の層で高くなっている。(図表Ⅱ-51)

〈図表Ⅱ-51〉 医療保障に対する充足感〔性・本人職業別、性・本人年収別〕

(単位：%)

		N	十分 足りている	どちらかと いえば 足りている	充足感 あり	わからない	充足感 なし	どちらかと いえば 足りない	まったく 足りない
男性		1,713	8.9	34.9	43.8	7.3	48.9	38.0	10.9
本人 職業	自営者	263	11.8	36.1	47.9	4.2▲	47.9	40.7	7.2▲
	農林漁業	44	6.8	31.8	38.6	13.6	47.7	38.6	9.1
	商工サービス業	186	11.3	36.0	47.3	2.7▲	50.0	43.5	6.5▲
	常雇被用者	1,075	8.8	37.0	45.9	6.6	47.5	39.2	8.4▲
	公務員	122	10.7	55.7	66.4	5.7	27.9▲	25.4▲	2.5▲
	民間企業被用者	953	8.6	34.6	43.2	6.7	50.1	40.9	9.1▲
	小企業被用者	199	5.5	31.7	37.2▲	7.0	55.8	45.2	10.6
	中企業被用者	433	8.3	30.9▲	39.3▲	8.1	52.7	41.8	10.9
	大企業被用者	314	11.1	41.4	52.5	4.5▲	43.0▲	36.9	6.1▲
	非正規社員 無職	110 192	5.5 9.9	27.3 30.7	32.7▲ 40.6	10.0 8.9	57.3 50.5	37.3 30.2▲	20.0 20.3
本人 年収	収入はない	89	5.6	24.7▲	30.3▲	13.5	56.2	30.3	25.8
	300万円未満	404	7.4	29.0▲	36.4▲	8.9	54.7	37.9	16.8
	300～500万円未満	423	7.3	32.4	39.7▲	7.1	53.2	42.3	10.9
	500～700万円未満	274	7.3	45.6	52.9	3.3▲	43.8	39.1	4.7▲
	700～1,000万円未満	198	13.1	46.5	59.6	4.0	36.4▲	33.3	3.0▲
	1,000万円以上	67	31.3	40.3	71.6	1.5	26.9▲	23.9▲	3.0▲
女性		2,215	5.3	37.7	43.0	7.9	49.1	38.3	10.8
本人 職業	自営者	155	7.7	42.6	50.3	3.9	45.8	36.1	9.7
	農林漁業	22	9.1	40.9	50.0	9.1	40.9	40.9	0.0
	商工サービス業	115	7.8	42.6	50.4	3.5	46.1	34.8	11.3
	常雇被用者	628	5.1	39.0	44.1	6.7	49.2	39.0	10.2
	公務員	65	9.2	58.5	67.7	6.2	26.2▲	23.1▲	3.1▲
	民間企業被用者	563	4.6	36.8	41.4	6.7	51.9	40.9	11.0
	小企業被用者	120	5.0	43.3	48.3	3.3	48.3	35.8	12.5
	中企業被用者	310	5.5	31.6▲	37.1▲	7.4	55.5	44.8	10.6
	大企業被用者	123	2.4	43.9	46.3	8.1	45.5	35.8	9.8
	非正規社員 無職	700 671	3.6▲ 6.3	35.6 37.7	39.1▲ 44.0	7.7 8.8	53.1 47.2	40.7 37.6	12.4 9.7
本人 年収	収入はない	433	7.4	39.3	46.7	8.8	44.6▲	34.9	9.7
	100万円未満	554	4.0	34.1▲	38.1▲	7.9	54.0	39.9	14.1
	100～300万円未満	687	3.9	35.1	39.0▲	6.6	54.4	42.2	12.2
	300～500万円未満	216	5.1	41.2	46.3	5.6	48.1	39.8	8.3
	500万円以上	87	6.9	57.5	64.4	5.7	29.9▲	26.4▲	3.4▲

7. 医療保障に対する今後の準備意向

ここでは、医療保障に対する今後の準備意向を捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ご自身がケガや病気で治療や入院されることになった場合に備えて、今後新たに経済的な準備をしたいとお考えですか。

- (ア) すぐにも準備したい……………以下「すぐにも準備」
- (イ) 数年以内には準備したい……………以下「数年以内には準備」
- (ウ) 特に時期は決めていないが、いずれは準備したい……………以下「いずれは準備」
- (エ) まったく準備するつもりはない……………以下「準備意向なし」
- わからない

その結果、「準備意向あり」（上記の選択肢で（ア）～（ウ）のいずれかに回答した人の合計）は66.4%、「準備意向なし」は29.0%となっている。

前回と比較すると、大きな差はみられなかった。（図表Ⅱ－52）

〈図表Ⅱ－52〉 医療保障に対する今後の準備意向

（単位：％）

	「準備意向あり」					N
	すぐにも準備	数年以内には準備	いずれは準備	準備意向なし	わからない	
令和元年	5.1	15.2	46.1	29.0	4.6	4,014
			(66.4%)			
平成28年	6.5	15.1	43.5	31.5	3.5	4,056
			(65.0%)			
平成25年	7.2	15.4	44.6	29.5	3.3	4,043
			(67.2%)			
平成22年	6.7	14.5	44.1	30.4	4.2	4,076
			(65.3%)			
平成19年	5.3	13.5	45.8	29.3	6.1	4,059
			(64.5%)			
平成16年	5.7	11.8	44.7	31.4	6.4	4,202
			(62.2%)			
平成13年	5.3	13.5	44.1	30.0	7.0	4,197
			(63.0%)			
平成10年	5.6	12.5	44.6	31.1	6.2	4,217
			(62.7%)			

性・年齢別にみると、男女とも若年齢層ほど「準備意向あり」が高くなっている。(図表Ⅱ－53)

〈図表Ⅱ－53〉 医療保障に対する今後の準備意向〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	準備意向			準備意向あり	準備意向なし	わからない
		すぐにも準備	数年以内には準備	いずれは準備			
男性	1,765	5.4	14.1	45.4	64.9	30.6	4.5
20歳代	205	3.4	23.9	57.6	84.9	11.7▲	3.4
30歳代	296	4.7	16.6	50.3	71.6	24.7▲	3.7
40歳代	422	6.4	14.9	51.2	72.5	23.0▲	4.5
50歳代	389	6.4	13.1	43.2	62.7	34.4	2.8
60歳代	410	4.9	7.3▲	31.5▲	43.7▲	51.0	5.4
女性	2,249	4.8	16.0	46.7	67.5	27.8	4.6
20歳代	197	4.1	20.8	61.4	86.3	11.7▲	2.0
30歳代	383	4.2	24.0	56.1	84.3	12.0▲	3.7
40歳代	526	4.4	15.6	54.8	74.7	21.3▲	4.0
50歳代	511	5.1	16.0	46.8	67.9	28.8	3.3
60歳代	593	5.6	9.3▲	28.8▲	43.7▲	48.9	7.4

性・本人職業別にみると、「準備意向あり」は男性では中企業被用者で、女性では中企業被用者と非正規社員で、それぞれ高くなっている。(図表Ⅱ－54)

〈図表Ⅱ－54〉 医療保障に対する今後の準備意向〔性・本人職業別〕

(単位：%)

	N	準備意向			準備意向あり	準備意向なし	わからない
		すぐにでも準備	数年以内には準備	いずれは準備			
男性	1,765	5.4	14.1	45.4	64.9	30.6	4.5
自営者	265	5.3	10.9	44.2	60.4	34.3	5.3
農林漁業	45	2.2	11.1	48.9	62.2	31.1	6.7
商工サービス業	187	5.3	10.7	46.0	62.0	32.6	5.3
常雇被用者	1,095	5.6	16.2	48.9	70.6	25.8▲	3.7▲
公務員	123	3.3	11.4	52.8	67.5	30.9	1.6
民間企業被用者	972	5.9	16.8	48.4	71.0	25.1▲	3.9
小企業被用者	203	6.4	13.3	50.7	70.4	23.2▲	6.4
中企業被用者	441	7.3	17.9	47.2	72.3	25.2▲	2.5▲
大企業被用者	319	3.1▲	17.2	48.9	69.3	26.3	4.4
非正規社員	112	7.1	6.3▲	50.0	63.4	32.1	4.5
無職	197	3.6	10.7	25.9▲	40.1▲	55.8	4.1
女性	2,249	4.8	16.0	46.7	67.5	27.8	4.6
自営者	156	7.1	14.1	37.2▲	58.3▲	37.8	3.8
農林漁業	23	0.0	8.7	34.8	43.5▲	47.8	8.7
商工サービス業	115	9.6	13.0	38.3	60.9	35.7	3.5
常雇被用者	631	5.1	18.2	51.2	74.5	21.7▲	3.8
公務員	65	3.1	20.0	43.1	66.2	33.8	0.0
民間企業被用者	566	5.3	18.0	52.1	75.4	20.3▲	4.2
小企業被用者	121	6.6	18.2	46.3	71.1	27.3	1.7
中企業被用者	312	4.5	17.9	55.4	77.9	17.0▲	5.1
大企業被用者	123	5.7	17.9	49.6	73.2	22.0	4.9
非正規社員	706	4.2	16.1	51.1	71.5	23.9▲	4.5
無職	677	4.4	13.9	39.4▲	57.8▲	36.8	5.5

8. 入院費用をまかなう手段

2～3ヵ月の入院が必要になる場合を想定したときに、公的な医療保障や企業からの保障、私的な準備などのなかで、どのような手段によって治療費や生活費をまかなおうと考えているかを捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ご自身がケガや病気で2～3ヵ月程度の入院が必要になった場合に、どのような手段で治療費や生活費などをまかなっていかうとお考えですか。これから準備しようとお考えのものも含めて、この中からいくつでもお答えください。

- (ア) 公的医療保険（国民健康保険や健康保険など）
- (イ) 企業の見舞金や休業補償
- (ウ) 民間の生命保険会社や郵便局、JA（農協）などで取り扱っている生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険（ガン保険など、特定の病気を対象とするものを含む）（銀行・証券等の窓口で加入した商品も含む）
.....以下「生命保険」
- (エ) 損害保険
- (オ) 預貯金
- (カ) 株式・債券などの有価証券.....以下「有価証券」
- (キ) 家族の収入
- (ク) その他
わからない

その結果、「公的医療保険」が71.8%と最も高く、以下「生命保険」（69.8%）、「預貯金」（50.2%）、「家族の収入」（18.2%）、「損害保険」（15.3%）の順となっている。

前回と比較すると、「企業の見舞金や休業補償」が1.7ポイント増加している。（図表Ⅱ－55）

〈図表Ⅱ－55〉 入院費用をまかなう手段

（複数回答，単位：％）

	N	公的医療保険	企業の見舞金や休業補償	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	家族の収入	その他	わからない
令和元年	4,014	71.8	14.3	69.8	15.3	50.2	2.3	18.2	0.6	2.4
平成28年	4,056	73.4	12.6	69.5	16.0	52.0	2.8	18.9	0.8	2.3
平成25年	4,043	72.9	10.7	67.4	14.8	49.7	2.4	18.9	1.3	1.5
平成22年	4,076	73.5	10.9	64.6	14.4	49.7	2.5	20.0	1.2	2.1
平成19年	4,059	73.8	11.4	66.7	18.0	48.9	2.6	19.4	0.8	2.3
平成16年	4,202	74.9	9.8	65.3	18.1	51.3	2.2	24.6	1.1	2.9
平成13年	4,197	75.1	14.2	64.9	21.6	50.9	2.2	22.8	0.8	2.0
平成10年	4,217	74.0	12.4	67.0	21.1	52.7	2.0	26.7	0.6	2.6

性別にみると、「企業の見舞金や休業補償」、「損害保険」、「有価証券」は男性で高く、「生命保険」、「家族の収入」は女性で高くなっている。

性・年齢別にみると、「企業の見舞金や休業補償」は男性30～40歳代、女性20～30歳代で、「生命保険」は男女とも40～50歳代で、それぞれ高くなっている。また、「預貯金」は男女とも60歳代で高くなっている。(図表Ⅱ-56)

〈図表Ⅱ-56〉 入院費用をまかなう手段〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	公的医療保険	企業の見舞金や休業補償	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	家族の収入	その他	わからない
男性	1,765	71.4	20.1	66.9	18.2	48.6	3.6	10.4	0.7	2.8
20歳代	205	72.2	20.0	47.8▲	13.2▲	48.3	1.0▲	18.0	0.0	2.0
30歳代	296	72.6	35.5	70.3	17.2	45.3	2.4	11.5	1.0	4.4
40歳代	422	72.7	24.9	74.9	17.5	47.4	2.8	8.5	0.7	2.8
50歳代	389	70.4	22.6	72.8	23.9	48.8	6.2	8.2	0.3	1.3▲
60歳代	410	72.2	3.4▲	65.4	17.8	55.1	4.4	6.1▲	0.7	2.4
女性	2,249	72.2	9.7	72.1	13.1	51.4	1.3	24.3	0.5	2.2
20歳代	197	68.0	18.8	54.3▲	9.1	45.7	1.0	33.5	0.0	2.0
30歳代	383	72.3	16.4	75.2	10.7	52.2	0.5	29.8	0.0	1.6
40歳代	526	70.9	10.8	77.8	13.9	46.8▲	1.3	27.2	0.0	2.1
50歳代	511	73.8	8.8	76.3	13.5	51.7	1.4	23.3	0.6	1.2
60歳代	593	74.0	2.5▲	70.3	15.0	57.8	2.0	15.2▲	1.3	3.0

性・本人職業別にみると、「生命保険」は男性では公務員、中企業被用者、大企業被用者で、女性では小企業被用者で、それぞれ高くなっている。

性・本人年収別にみると、男女とも概ね高年取層ほど「企業の見舞金や休業補償」、「生命保険」が高くなっている。(図表Ⅱ-57)

〈図表Ⅱ-57〉 入院費用をまかなう手段〔性・本人職業別、性・本人年収別〕

(複数回答, 単位: %)

		N	公的医療保険	企業の見舞金 や休業補償	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	家族の収入	その他	わからない
男	性	1,765	71.4	20.1	66.9	18.2	48.6	3.6	10.4	0.7	2.8
本人職業	自営者	265	64.5▲	6.0▲	66.8	22.3	54.7	3.4	9.4	0.4	3.8
	農林漁業	45	68.9	2.2▲	66.7	17.8	53.3	0.0	4.4	0.0	6.7
	商工サービス業	187	65.8	7.0▲	66.3	24.1	54.5	4.8	11.2	0.5	3.7
	常雇被用者	1,095	73.2	29.4	73.6	18.5	47.8	3.4	8.8▲	0.5	2.1▲
	公務員	123	76.4	33.3	78.9	13.8	57.7	1.6	8.1	1.6	0.8
	民間企業被用者	972	72.7	28.9	72.9	19.1	46.5▲	3.6	8.8▲	0.4	2.3
	小企業被用者	203	70.9	21.2	69.5	21.2	36.9▲	1.5	10.8	1.5	3.4
	中企業被用者	441	73.9	24.5	74.4	20.0	49.9	4.3	9.1	0.2	2.0
	大企業被用者	319	72.4	40.4	73.4	16.9	48.3	3.8	7.5	0.0	1.6
	非正規社員 無職	112 197	71.4 72.1	3.6▲ 2.5▲	63.4 47.7▲	22.3 11.7▲	43.8 55.3	4.5 6.1	11.6 9.6	0.0 1.0	1.8 3.6
本人年収	収入はない	105	64.8	3.8▲	32.4▲	5.7▲	35.2▲	2.9	26.7	1.9	6.7
	300万円未満	421	69.8	6.9▲	55.1▲	14.7▲	45.1	3.1	11.9	1.0	4.0
	300～500万円未満	433	75.3	22.2	70.2	20.8	48.7	3.5	11.3	0.5	2.3
	500～700万円未満	275	72.7	33.8	82.9	22.2	49.8	2.2	7.3	1.1	0.4▲
	700～1,000万円未満	198	72.2	33.3	77.8	22.7	54.5	7.6	6.1▲	0.5	1.0
	1,000万円以上	67	62.7	28.4	76.1	25.4	74.6	13.4	4.5	0.0	0.0
女	性	2,249	72.2	9.7	72.1	13.1	51.4	1.3	24.3	0.5	2.2
本人職業	自営者	156	76.3	3.2▲	78.2	16.7	55.1	1.3	24.4	0.0	1.3
	農林漁業	23	78.3	0.0	65.2	17.4	47.8	0.0	30.4	0.0	4.3
	商工サービス業	115	74.8	4.3▲	79.1	17.4	61.7	1.7	21.7	0.0	0.9
	常雇被用者	631	76.5	24.4	75.6	14.1	51.7	0.8	20.1▲	0.2	1.1▲
	公務員	65	84.6	26.2	73.8	10.8	64.6	0.0	23.1	0.0	0.0
	民間企業被用者	566	75.6	24.2	75.8	14.5	50.2	0.9	19.8▲	0.2	1.2
	小企業被用者	121	77.7	17.4	84.3	21.5	51.2	0.0	21.5	0.0	0.0
	中企業被用者	312	76.6	22.1	72.1	12.8	46.8	0.6	21.2	0.3	1.6
	大企業被用者	123	69.9	37.4	77.2	11.4	58.5	2.4	15.4▲	0.0	0.8
	非正規社員 無職	706 677	71.1 69.3▲	5.4▲ 2.8▲	72.9 69.9	14.2 10.5▲	51.0 52.9	1.6 1.8	26.9 24.2	0.1 1.3	2.0 3.1
本人年収	収入はない	449	69.0	4.0▲	68.4▲	9.8▲	48.6	1.1	30.1	0.2	2.2
	100万円未満	563	72.1	3.9▲	71.4	13.3	54.9	2.0	27.0	0.4	2.7
	100～300万円未満	689	73.3	11.3	72.3	14.1	50.2	0.9	23.2	1.0	0.9▲
	300～500万円未満	217	74.7	23.5	75.6	13.4	57.6	0.9	20.7	0.0	1.8
	500万円以上	87	80.5	36.8	85.1	21.8	56.3	3.4	16.1	0.0	1.1